

平成30年度第1回高砂市総合教育会議 会議録（公表用）

平成30年8月9日（木）高砂市総合教育会議を高砂市役所南庁舎2階会議室2において開会

出席委員

市長	登	幸人
教育長	衣笠	好一
委員	山名	克典
委員	吉田	美香
委員	神尾	信作
委員	布施	隆志

出席事務局職員

企画総務部長	江谷	恭一
企画総務部総務室長	荻野	章広
企画総務部総務室総務課長	樽家	正治

教育部長	永安	正彦
教育部教育推進室長	阿部	伸也
教育部教育推進室教育総務課長	都筑	広明
教育部学校教育室長	瀧野	祐一
教育部学校教育室学校教育課長	赤松	祐人

傍聴者

1名

本日の議事

- （１） コミュニティ・スクールについて
- （２） プログラミング教育について
- （３） 学校施設の環境整備について
- （４） その他

○事務局

それでは、定刻になりましたので、これより平成30年度第1回高砂市総合教育会議を開会いたします。

最初に、市長から御挨拶をお願いいたします。

○登 幸人市長

暑い中、またお忙しい中、第1回の総合教育会議を開催しましたところ、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。そして、また皆様方には教育委員会委員として高砂市の教育の振興に御尽力を賜っておりますことを、この場をおかりして本当に感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

地域としても喜ばしく思っており、幼児教育について、今、こども園化という形で着実に進めさせていただいております。梅井保育園（仮称）も来年3月には完成で、伊保こども園という形で報告でき、来年4月から始めるように思っております。また、小中一貫教育、これにつきましてもこの4月からということで全市に実施をされております。それからまた、中学校給食についてはセンター化でさせていただきたいということで御了解をいただき、これも今、起工式が終わりまして、来年度には全面実施できるという見込みとなっております。

そのような中でありますけれども、教育予算、市の中での財政的な面から言えば、市の予算でそのうち教育予算で占めているのが平成29年度決算では約20数億円だったと思います。この中で教育関係費というのが大体6%から7%の間ではないかと思います。それが高いか低いかというのはいろいろ議論があると思いますけれども、いつも問題になるのは国の教育予算、これが2%台ということで国際的にも非常に低いレベルにあるというのは事実なのであります。高砂市の教育予算につきましては、教育委員会さんとまた教育長さんを初めとして協議をしながらこれまで編成をしてきたところでございまして、今後もまた充実、振興に図っていきたいと思っております。

また、文化の面でも5月に旧工楽邸を中心とした高砂地区であります。日本遺産に認定されたということもあります。また、申義堂も完成をして、それなりの利用の仕方、活用の仕方をしていただいておりますし、また石の宝殿の整備計画も作っていただいております。今後そういう意味では、前進的な文化振興も図っていただけるのではないかと考えております。市としても努力をしていきたいと思っております。

そういった中で、本日の総合教育会議でございまして、まずは予定としましては、コミュニティ・スクールについて、それからプログラミング教育、いわゆる情報教育について、それと学校施設の環境整備と書いてありますけれども、これはエアコンということで上げさせていただいておりますが、全般的にまた環境整備に入りましたら意見交換させていただきたいと思います。それから、その他として最近全国学力テストの結果が新聞等でも報道されておりましたが、高砂市では、どうでしたかということで、その点お尋ねしたいと思っておりますので、今のところ4つを市からは提案させていただきたいと思っております。よろしく願いを申し上げます。

○事務局

ありがとうございます。

本日は、全ての構成員の皆様にご出席いただいております。

出席者の御紹介につきましては、出席者名簿をもってかえさせていただきます。

それでは、これから議事に入らせていただきます。

議事の進行は、高砂市総合教育会議運営要領第4条の規定により、市長が行うこととなっておりますので、これからの進行は市長をお願いいたします。

○登 幸人市長

それでは、早速ですけれども、この会議次第に従って進めさせていただきたいと思います。

まず、コミュニティ・スクールについてでございます。

これについては資料も出させていただいており、また説明等もお願いしたいと思っておりますけれども、昨年の3月に地方教育行政法の改正がありまして、主体が教育委員会、主語が教育委員会で各学校に導入するという努力義務が課されました。このうちの一環で、学校、家庭、地域が一体となって子どもの教育を支援していくのだというのを、これは前からの方針等もありますし、高砂市としても教育振興計画の中にもはっきりと明記をされております。その中で、この教育委員会の各学校にコミュニティ・スクールを導入するということの背景には、学校評価があるというふうにも認識をしております。学校の評価自体はどのような形ですのかというのはまたいろいろと考え方があろうかと思っておりますけれども、そういう中であって高砂市の現状は、29年、1年過ぎました。そして今、30年度になって3箇月、4箇月が過ぎました。その状況の中でどのような状況になっているのかということをお報告いただきたいと思いますので、まずそこからよろしくお願いを申し上げます。

それでは、報告をいただけますか。

○赤松祐人学校教育課長

資料の説明をさせていただきます学校教育課長です。

1ページの資料ですけれども、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の仕組みとして、文部科学省が示している資料でございます。

コミュニティ・スクールは先ほど申しましたけれども、学校運営協議会を導入している学校のことでございます。平成29年に改正されました地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づく制度でございます。主にその図の下に書いてありますが3つの役割をもっております。1つ目が、校長が作成する学校運営の基本方針を承認する。それから2つ目につきましては、学校運営について教育委員会または校長に意見を述べることができる。3つ目が、教職員の任用に関して、教育委員会規則で定める事項について、教育委員会に意見を述べるということでございます。3つ目につきましては、小学校に英語の免許を所有する教員を配置してほしいというようなことが事例として挙げられております。

コミュニティ・スクールは、地域とともにある学校づくりの有効なツールとして文部科学省も考えているというところで、そこには仕組みを図にあらわしたものが1ページの資料でございます。

○登 幸人市長

この資料でちょっと聞きたいのですが、一番下に見えている学校運営協議会の主な役割の教職員の任用に関して、これはもう外されているのではないのですか。まだ残っているのですか。

○赤松祐人学校教育課長

はい。残っております。

○登 幸人市長

任用に関してって、どこまで。

○赤松祐人学校教育課長

やめさせるとかそういうものではなくて、こういうような先生がこの学校におればいいのではないかと。例えば小学校で英語が始まることに関しましては、英語の免許をもった先生を小学校に配置してほしいであるとか、そういうような意見を述べることができる。

○登 幸人市長

ということは、例えば先生個人に対して、あなたはこういうところがまずいねとか、こんな先生要らんとか、そういうことではないということですね。わかりました。それで、今現在どのような状況になっていますか。

○赤松祐人学校教育課長

現在、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を取り入れた学校は市内にはございません。近隣では、導入の動きがあるであるとか既に導入しているというような、稲美町は導入をしておるといふふうに聞いております。

○登 幸人市長

稲美町は多分、町で1つということですよ。まだ設置されてないというのは、何か理由があるのですか。努力義務やから。

○赤松祐人学校教育課長

というところで。

○登 幸人市長

必置ではないからということなのですか。または、教育委員会が主導してつくる努力を課されているのですが、教育委員会自体としてか、あるいは教育委員会へ行っても学校自体が抵抗するとか、実態はどうなのですか。

○赤松祐人学校教育課長

今、調査研究をしているところでございます。

○山名克典教育委員

このコミュニティ・スクールに関しまして市長が言われていますけど、僕ら自身も情報として入ったのはつい最近の話であって、あるのは知っていましたが、実際にはコミュニティ・スクールの仕組みに関してもいろいろな情報が入ってきたのはつい最近だと思っていますのです。実際には、高砂市の教育委員会の中では、コミュニティ・スクールとして話し合ったのは、つい最近の教育委員会で話し合ったのが初めてで、実際その中でコミュニティ・スクールのメリット、デメリット、いろいろなことがありますけれども、それなりの関係のそれぞれの委員会以下で検討していきましようという形で今、資料をもらったりして読んだりしているところで、実際には具体的にこれに関して各学校でどんなふうにとらえようかというの、まだ教育委員会の中ではまだ議題に上がってない。情報提供をしてもらったり、実際には僕自身としては先ほど言ったような任命権の問題にしてもそうだし、将来の学校評議員というか、協議会の分と今の

学校評議員との兼ね合いとか、あるいは学校に協力してくれる方々を、どんな形の委員を選ぶに当たっての選任に関しても、今までの評議員を選ぶような形とどこが違うのかとか、あるいは地域の中でいろんなことをやられて学校に非常に思い入れのある方、努力しようとしている方といったらそんなに人材的なものとして豊富にあるのかどうかということになるし、実際にあったとして、登用したら年齢的なものとか、あるいは逆に言うと言葉悪いですけども地域ボスのな方が入ってきたりしたら、いわゆる神戸市の問題とかいろんなところの弊害があったりとかいうことをいろいろ懸念しながらこれから考えていくのだろうと思いますけども、僕自身はまだ個人的に言わせてもらっていますけれど、コミュニティ・スクールというのは言葉の遊びをやっているような感じで、まだ自分でかみ砕いてそれなりに学校評議会との兼ね合いとこれとの分の差別化してないし、実際これに関してはメリット、デメリットに対して想定していくことが積み重ねていつている段階で、改良するのが正しいかどうかいうと、結論からいって、この前の教育委員会の中でぽこっと出されたことで、長続きするような制度があり得るのだろうかという懸念もあるので、今言われている、今現実には動いている評議会、それとの兼ね合いも理解できないですよ。

僕の個人的意見ですけども。

○登 幸人市長

教育委員会の例えば事務局から、その時期で案を上げたのが最近ということですけども、法律改正は去年の3月やね。それは何でなんですか。調査研究って言われましたけど、何を調査研究されているのかということなんですよ。

○衣笠好一教育長

調査研究という、課長のほうから話がありましたが、先進地の様子をしっかりと踏まえてってということもありますけども、あんまりのんびりしてられないという気持ちも一方である中で、ちょうど文科省の方から、ある方からの紹介で2人、直接来られて説明を受けました。その中でアドバイスをたくさんいただきまして、文科省としても5年後に先進地の取り組みのまとめを出すから、それをしっかりと踏まえてやってくださいねとか、あとコーディネーターの人材確保はやっぱり必要ですよとか、それからあと、1つの地域との関係が両方の学校を研究校にして研究していくのも1つの方法ですよ。ただ、形をつくるだけでは失敗例がたくさんありますので、1つ研究校でいいな、うちもやってみようというような機運を高めてからやるべきだということたくさんアドバイスをいただいた中で、教育委員会としましていろいろなところで情報を集めたり、先日は稲美町の教育委員会で、稲美北中が導入したということで、それについても聞きに行きましたところ、稲美北中のほうは問題行動が多発していて課題があったので、地域のほうから、また先生方から、こういった学校からの声があって、地域とともに学校運営をしていきたいという声があったので導入して、今、何とか地域からの支援もいただきながらやっているところです。トップダウンではできませんよということで、それを聞いたから聞いているわけではない

ですけども、そういったことを聞きながら今、教育委員会、委員の皆様の御意見も先日ちょっと聞かせていただいたんですが、事務局としてはどこの学校、どこの地域、一部法律が改正されたときに今言いましたように、市長さんがおっしゃったように努力義務化したということと課長が申し上げましたように人事面のことが緩和されたということ。

もう一つは、1つの学校に置くのではなくて、地域として、例えば一貫教育をやっている地域でやってもいいですよ。1つの学校ではなくて2つの学校の中で1つ協議会を置

いてやることも可能になりましたということもありましたので、そのあたりをちょっと調査または研究をしながら、来年度あたりからモデル校を指定して取り組みを検証して、学校運営協議会の規則も作成する必要がありますので、そのあたりをしっかりと踏まえながら、逃げているような表現になってしまいますけども焦らずにじっくりと考えていきたいというようなことで、まだ実際のコミュニティ・スクールが導入されていないのが正直なところの現状です。

○登 幸人市長

先ほど言いましたように学校、地域間で一体となっている支援体制をどうつくっていくかの中で、このコミュニティ・スクール、学校運営協議会も1つの方式かなと思いますし、もともとこれをつくったのはいろんなことでうたい文句が皆さんいいことが書いてあるわね。学校の主体性をもっと増強させるとか、あるいは教育の質を保障させるとか、そういったようなことが書いてありますけれども。

それともう一つは学校評価をすべきではないのかな。学校評価は誰がするのかというのは、やっぱり保護者とかあるいは地域の人たちとか、そういった人にやってもらう。それによって学校、地域、家庭が一体となった支援体制ができ上がる。その評価をどのような評価になってくるのかはまた別にしても、その評価の質も高めていかないといけないのですけどね。そういうことから、このコミュニティ・スクールいうのができ上がってくる。現実はどうなんかいっているのはやっぱりいろいろと取り入れようとしたときには課題も出てくるのだろーと思います。

ただ、新しいことに対して例えば後ろ向きというのか臆病になる必要もないのかな。もっと積極的に検討していただいて、やめるならこれを入れない、導入しない。導入するなら、さあ導入しようって、どんな形でしようって、メリハリをつけたほうがいいのではないかな。1年半分ぐらいまでして、まだ調査研究しているって、何をしているのだろーというふうにも思いますので、そういう意味合いでコミュニティ・スクール早く結論を出していただいたほうがいいのと違うかなと思ひまして、この議題させていただいたところなのですけれども。

○神尾信作教育委員

すみません。どちらか早く結論を出すべきだという、全くそうだと思いますので、私は、今はまだ必要がないのかなと思ひているのですが、ただ仕組みというのは、私も現場におるときからPTAとかいろんな地域と一緒にあって学校が子どもを育てるということは本当に大切なことで、例えば具体的に言えば地域の方、PTAの方が中心になって学校環境整備、例えば草花を植えるとか、雑草をとるとかをやっていただいたり、学校が乱れているときにPTAの人が来てくれて、ちょっと学校がおさまったよとか、部活動なんかでもいろんなところを変えてということで、地域の方々とうまくタイアップしながらやってきた経験がありますので、地域からいろんな方に入っていただく、開けた学校をつくるというのはもちろんオーケーで、それは求めるべきとこなんですけど、ただ、今回の学校運営協議会というのは非常に権力が、影響力が高いですよね。学校評議員とは、先ほど山名委員からもありましたようにどう違うのか。最終的にはほとんど一緒だけど、影響力、権力が非常に今度は強化されている。じゃあ、そういうものが入っていくときに稲美北中のニーズという部分で、そのときには現場からそういう要請があった、何とかしたいと。そういうことがあるならば、非常にいいシステムだと思います。ただ、これはそういうニーズがないときにやってしまうと、先ほどトップダウン、ボトムアップという話がありましたけども、ニーズがあってボトムアップで行けば、これは、うまく使えるかなと思うのですが、そうじゃなくてトップダウンでやってしまうと今、

御存じのようにいろいろ学校現場それこそプログラミングにしても小中一貫にしても給食にしても新学習指導要領の対応にしてもいっぱい山積していますので、その中にこれが今入っているのは、非常に負担感が増すのかなという感じがしています。

実際、私は中学校のほうがよく知っているのですが、余りそういうニーズが今はないのではないかなと考えています。要するに問題はあるのですけども、喫緊の課題とか切迫したような課題をもってないと感じていますので、校長からもそんな話も幾らか聞いていますので、ならば今そんなに急いでしなくても、もう少し様子を見て使えるときになって、この学校運営協議会というのを使えばいいのかな。そんな思いをもってします。

あともう一つ、市長から言われた学校評価については、学校評議員会がするのですけど、あと実際管理職は、いろんなというか人権の集会とか老人会とかいろんな地域に出向くことが今、増えています。あとオープンスクールとかもやっているの、その中でいろんな評価、具体的な評価は、地域の評判とか評価は学校現場では耳にしていますので、そこからでも多分行けるだろう。それは正式なものではないのでちょっと弱いと言えば弱いのですが、そういうところをうまく組み合わせていけば学校運営協議会というそういう組織に頼らなくても、今ある組織で十分今はやっていけると感じています。

○布施隆志教育委員

私は、この学校運営協議会制度を初めて聞いたのですけども、うまくこれが学校側とタイアップしていい結果を出せる可能性はあるなと思ひまして、今もちろん直近の課題とかいうのがあるとして、それをともに家庭、保護者側からと学校側とそれぞれが共有化していったそれを解決する手段として、私が思うのには、今の課題としてやはり学力向上が1つの課題じゃないか。学力向上については、学校の先生が頑張ってもらうのは当たり前ですけども、学校の先生だけで頑張っても結局、学力向上はうまくいくとは思えないのです。それはもちろん学校側と他に家庭での学習というのが絶対必須であって、家庭側の学習というのはじゃあどうやって向上させるかということ、保護者を一緒に取り込んだ好みじゃないとうまくいかないんじゃないか。パターンは一生懸命切りますけども、家庭ではゲームであったりだとかビデオを見たりだとかテレビ見たりだとか、そういうことをしていれば結局は他の全国的にいいレベルの子たちが必ず負けてしまう。そういう課題があればこそ学校の先生が頑張って、かつ保護者側の学校運営協議会の方がうまく機能すれば、学校側だけじゃなくて保護者側も頑張らないといけんじゃないかっていう、お互いに課題を認識してもらえば、今の学校評議員の方々がいらっしゃいますけども、そこまで入り込んだことはやってないのが現状で、それ以上のものを期待するのだったらこういうもっと組織的に頑張れるものがあれば、私はこれをうまく使えば高砂市自身がますますよくなるんじゃないか。

極端なことを言うと高砂市の学習レベルが上がってくると、やはり高砂市に住みたいっていう人も出てくるし、ここによそから仕事で来るんじゃないくて、ここに住んでここで働いて、またここからよその市に働きに行くだとか、そういう局面に変えていくことが多少なりともできるんじゃないかな。

この高砂の地域が不利な地域であるとは思わないのです、学習の面で。すぐ横には高校で言うと県立のトップクラスの進学校が加古川東でもありますし、小学校から中学受験だったら全国トップクラスの白陵もありますし、極端なことを言うと、私の知っている範囲で言うと白陵に他の市からいっぱい来ているのです。1学年190名いて、姫路から60人ぐらい、高砂市から10人、加古川から以西が120人、北のほうの小野だとか三木から10人。そういう人たちが集まって来る市でもあるので、じゃあここで住んでもらえればもっといいじゃないのかな。住むためにはやっぱり学習レベル、学力

レベルを上げていくこと、教育レベルが充実するとやっぱりここに住みたいなという人も増えてくる。そのためにはやっぱり先生ももちろん頑張らないといかんけども、今の家庭学習をもっともっと充実させないといけません。そんなのにコミュニティ・スクールっていうのが活用できないのかなっていう。私は期待をしています。現実的にはどうなのかわかりませんが。

○登 幸人市長

先ほど神尾先生のニーズがないと言われましたね。ニーズというのは、自分からつくり出していかないとこういうのはできないんじゃないの。待っていたのではニーズは出てこないんじゃないのかなと思う。

○神尾信作教育委員

私の言いたかったニーズというのは、もう助けてくれみたいなの、今、学校現場はもうそういうところじゃない、とにかく手が回らなくて、何とか教育、市、行政の何らかの支援が欲しいという、そういう結構切羽詰まった感じのニーズ。私の言い方からすると、そういう状況になったらまずいということになるわけですが、それぐらいの思いがないと、これはなかなかうまくいかないのだろうな。パイロット校っていうお話もありましたけども、それも果たしてそれで行けるのかなって、逆に。関係が良好だと、なあなあで行ってしまう。それやったら学校評議員で十分行けるでしょう。そこでパイロット校が控えてしまえば、これ自体が失敗になってしまう。そんな思いです。

○登 幸人市長

一番最初、山名先生が学校評議員会、今それありますよね。これと今それがあって、学校運営協議会の名称はどないでもええと思うのです。その機能をこの学校運営協議会の機能をそこへもたせてもらうというのはあかんのですか。もう既にでき上がっているのをこの中にそれをつくっていくっていう。

○山名克典教育委員

言葉悪いですけど学校評議員の人選っていうのが問題で、選ばれている方々の名前を見ると非常に微妙なところがある。だから、保護者代表って何なんって言ったらPTA代表がそれに選ばれてきているし、そんな中に入ってきている地域の自治会の方々、あるいはPTAの役を経験した方々がその学校の評議員の中にずっと取られてしまっている。今その評議会是一种の極端に言ったら形骸化していると思います。こんなのを協議会の分に関して、新たに組織がえした形でいろんなことのニーズに対して迅速に対応して個々に対して速やかに対応していくような形、一個一個の問題を解決していくような形の機能を持たすって、そういう権限を持たしていくということになる日々、協議することがすごく増えると思うのです。それだけの努力してもらえ人をさらに選び出す。先ほど言った人材でどういう人を選ぶのだろうと言ったときに、ボランティアで入っている方々が出てきた。だけどそういう方は各校区の中に何人いるのだろうということになると、選びにくい、というのがあるし、また逆に具体的に選んだとしたら、その人はあることに関してはすごくやられる。いわゆる環境整備とかいろんなことをしてくれる。子どもの遊びとかしてくれる。でも次、違う人が、違うスポーツのことにしてくれる。そのほか昔の伝統的なことをやってくれる方々がいたりで、そしたら次に学校のこと、勉強のことに関しては実際どんなふうにするのか。例えば布施委員が言ったように、学力の向上のためにこれを大ざっぱにぼんやりとした形でこれをとっつかまえてしまって、これが学力向上につながるかといったら、具体的に形としてどんな委員を選ん

で、実際、学校とその委員含めて、あるいは協力をしてくれる、それぞれの保護者全員にいろんなことを伝えてくれる方々の連携が必要だと思う。大きな組織の手足になって動いてくれる、いわゆる連携をしてくれる人がいないと、かけ声倒れで結局、校長と委員の方々がしゃべって、実際に学力向上しますよって言ったって、結局どういう形の勉強の仕方をさせていくか。具体的な形で居残りの勉強をさすのか、あるいは学校の地域の中で特殊な勉強の仕方、寺子屋的な形でいろいろなことをやっていくのか。いろいろなものを考えていく必要があると思うのです。

それで、先ほど言ったプログラミングとかそんなこともあって、そういう特殊なことをやって、要するに時間外的な形の講義をやってくれるのか。そういうのでボトムアップしていくような形をしていかなきゃならない。だから、そういう人材を集めるに当たっては、かなりの努力が要と思う。大ざっぱにこれができたからといってするのではなくて、1回やるのだったらその人を集め、それと、学校との連携をするための校長にせよ教職員の先生方が覚悟をもたなきゃならないし、選ばれた方々は実際ある程度の理解がなかったとしても、それなりのことを言って、それなりの協力をお願いしますよって言ったときに、自分の生活の時間を割いて、それだけの協力してくれることに対する、報酬的なものが出てこなきゃならないし、それでほかの企業と連携もしなきゃならない。

そういうことをシステムの的に組み立てていくに当たってのそれだけの膨大な作業を今の学校の先生に、学校の校長にそれなりの魅力があってやったとしても、どこまでできるのだろうなという。ただでさえ手いっぱいだと言っているところに、こういうコミュニティ・スクールがあるからそれに乗っていかがですか、検討してくださいって言ったときの具体的に、いろんなことに関する協力の体制を考えていったときに、すごく大変。うまくいけばいいという期待はありますけど、個々を1個ずつ考えていって試行錯誤していくと、結果は得られるためにどれだけの努力が必要なのか、そういうプログラムはどんなものがあるのかなということを考えておく。あんまり大き過ぎると行き詰ってしまう。今の時点で大変なので、これやって、今の先生方の解放されている時間が本当に持て余して、それと今言われた近々で今この学校は大変だから、校長なり教職員なりがやりたいのだと。住民も本当に1回一大改革を期待する状態で機運が高まってきているという状態だったとしたら、やはり多大な犠牲を払いながらやっていけることはあるけど、本気でやるのだったらかなりきついなという気はする。お互いの共有認識をもってどこまでやる気やということを考えんとだめかな。

○吉田美香教育委員

私は、ニーズはないって先生おっしゃっていたのですが、学校にないかもしれないのですが地域とか子どもの側にはあると思うのです。母親と子どもで孤立している家庭なんかもありますし、また高齢者が1人でいるとかいろんな形があって、このコミュニティ・スクールっていう学校をツールにして何か社会が、もともとは小さな村っていう組織で一緒に動いていたものが、5、60年前に一気に人が増えて分化したじゃないですか。また減ってきているのです。そしたら、また1つになって動かないと。子どもを育てるっていうのは、私ちょっとびっくりしたのですが、小さい子に聞いたときにお母さんと先生以外の大人と話をしないっていう子がいたのです。大人に接する機会がない。そういうことってすごく怖いなと思ひまして、だからいろんな人と関われる、子どもにチャンスをもたらるやり方かな。そのためには、運営協議委員さんっていう方が本当に地域を動かして、地域の人に根づいた方で地域を動かして、それで子どものことを第一に考えてくださっているっていう方じゃないと難しいとは思いますが、何か学校側もしてもらおう仕組みというよりも、どちらかというと子どもたちにできることもいっぱいあると思うので、子どもたちが外へ出ていっておじいちゃんおばあちゃん

たちのためにできることをする。小学生でもごみを拾うとかいうことはできるわけですし、中学生になれば力も体力もあるから、ただ部活で鍛えている体力は何のためかって言ったら、いざという時に人を助けるためだというぐらいの気持ちで、何か地域に生かしていける自分なんだ、という思いをもってほしいですし、何かそういうきっかけになるようなツールになってくれたらなと思うんですけど、先生方は大変苦労か、わからないんですけど、そこのところを子どもたちのためにというので一肌脱いでいただいたり、地域の中でも何か子どもの将来に宝になるようなことができたらなというよう方がいらっしやって、頑張ってくださいたらいいなというふうに、私はこのことについては夢を抱いているのですけれど。

○布施隆志教育委員

今おっしゃったように先生たちも時間的な余裕が必要だし、いろいろ多忙なところは、課題から入って改善していったって、そこで時間の余裕をもたせて、いろんなコミュニティ・スクールに参画してもらおう。我々としては、先生のいる時間っていうのを非常に考えなきゃいけないのかなと思いました。かつ、ここにおられる運営協議会のメンバー、その人選も難しくもあるけども、しっかりとそういう人を選んでいく必要があるのかな。2つの条件は必要かなと思うので、我々としても先生のゆとり時間をつくらなきゃならない。それと人選も考えなきゃいけない。これをうまく進めたいと思えばですが、今、学校評議員の方いらっしやいますけども、そこまでどっぴりと子どもたち、まして学校とタイアップしてやっているかっていうのは私も過去やっていましたけどもできていないが現状です。だから、将来こういうのができたときに評議員の存在の有無っていうのは考えなきゃいけないと思うのです。

○登 幸人市長

学校にも我々自治体、国もそうですけど、情報公開はできるだけオープンな形になっています。なっていないところが、今だんだんそちらのほうに目を向けられていっている。学校もそのうちの1つと違うかな。そういうふうにとらえられていると違うかなと思っています。昔は、今もそうでしょうけど、学校や先生方にまかせとったらええんやというような時代から、いや、学校もみんなと一緒に考える。情報があったら全部出しなさいというような、そういう環境というのか、状況になってきていると思っていますので、それから逃げようとしたってなかなか逃げられないのところがうかなと思います。

今、検討していただいているということですので、必要な時間はとっていただいて、余り多くの時間ではなしに、また結論等を出していただければなと思いますので、この問題はまたその時にでもお話させていただきたいということで、よろしく願いを申し上げます。

2番目に、プログラミング教育と書いてありますけれども、いわゆる情報教育ということで、この2番目に入らせていただきます。

情報教育については、指導要領の中で、29年3月に出されて、小学校は32年から、中学校は33年から全面実施ということで、小学校については、30年、31年のあと2年しかないということでございます。そういう中で今現在のこの情報教育に対する取り組み状況、これをまず教えていただけたらなと思いますので、よろしくお願いします。

事務局のほうからでよろしいかな。

○赤松祐人学校教育課長

コンピュータ室に現在、小学校につきましては40台、それから中学校につきまして40台というものを配置いたしまして、それを活用しながら今、学習を進めていると

ころです。28年度にそれと同じ時期に導入しましたものが今、プロジェクターで黒板にホワイトボードのようなものを磁石で張って、すぐに映して使えるというものも導入しております。それが現在、学年に1台ずつ置いております。小学校は6台、中学校は3台で、結構それを利用した形で授業を進めていただいているということです。

コンピュータ室のコンピュータにつきましても、ソフト、教科書的なものであるとか、それから計算の演習的なものであるとか、音楽ソフトであるとか、そういうものも導入しておりますので、それと使いながら各学校で学習を進めておるという状況です。

○登 幸人市長

この中に今、新しいICTという言葉が書いてあって、32年度から導入はできるようになるのですが、これはデジタル教科書ですかね。そういったものも今後、出てきておりますので、教育委員会として、そういった課題に対して、取り組み方というのか方針というのか考え方というのか、それを教えていただけますか。

○衣笠好一教育長

この資料にもありますように、教育の情報化の3つの側面を資料でお示ししておりますけれども、この3つの側面を通して教育の質を向上させていく。特に情報化の進展が予想以上に進んできている今の社会に出ますのは、そういった論理的に考えたり、またはコンピュータを使ってということに特化したものじゃないんですけども、ICTというかそういうプログラミングをしていく。自分が意図する活動を実現するため、どのような組み合わせをしたらそれが実現するのかというふうな考え方ができる子どもを育てる意味では、大切な教育の1つになっていると認識しておりますので、その中で今、課長が申し上げましたように今のいろいろ予算をいただいて整えていただいたパソコン教室の40台のコンピュータであるとか、小学校向けの教育用のソフト、キューブキッズっていうのを導入していただいて、それらを利用しながらプログラミングを展開できるというふうには考えております。そんな中でただ、機器をもっと充実させることによって子どもたちが何か学習をした時に理解を深めるのに役立つであるとか、それを使うことによって教師が手づくりでつくった教材を模造紙に書いたものを示す時間が軽減されて、ソフトを使って授業の中にも生かせるという意味では、大切な教育を進めていく中で、もう少し充実させる必要も一方ではあるというふうには考えています。

ただ、市長さんの方から、実際に見に行ってきたさいということで、全国的なITソリューションエキスポというのに私が行かせていただいて見てきたんですけども、割と全部揃えなくても、率を揃えて授業で例えば1つの掛け算の式を手づくりで書いたものを見せてするということが従来だったのですが、それが画像に映してぱっぱっぱと変わることによって子どもがすごく興味をもったりとか、または1つの火山の爆発の様子を具体的に教科書や写真で見ただけでなくて動画で見ることによってすごく興味関心が向くとか、そういう意味ではこのICTの教育のよさというのはすごく実感させていただいて帰ってきたんですけども、ある程度の機器の設置というのは必要ですし、プラス先生方が、この資料にもありますけどもICT活用の指導力も高めていくということをししないと、せっかく揃えてもなかなかそれが効果的に生かせないということがありますので、そのあたりも今研修をやっているんですけども、さらに年配の先生方にこういったことをしっかりと力をつけていただきたいというのが一方でありながら、2020年からは実際に小学校で義務化、必須化されますので、それに向けて今、研修しながらやっていくとこなんですけども、できればちょっと充実させていただきたいというのが正直はあります。今、市長さんがおっしゃった電子黒板であるとか、またはデジタル教科書なんかも特に今は特別支援学級の子どもたちには結構有効な形で使わせてもらって

います。

○登 幸人市長

私はこういう情報機器とか、インターネットにしても、タブレットですぐ見られるような、それは単に目の前の事象を理解するのにはふさわしい道具かも知れないけども、あくまで道具であって、思考力まで活性化させるような、そういうものでもないのかなと。あくまでも、私は国語というのか言語というのか、ここが大事だなと思っていますので、言葉が多くなると頭の中で考える力ができませんし、考える範囲も狭くなっていますので、そういうものが基にあって初めてこういうものは生きてくるのではないのかな。あくまで道具であって、それ以上のものでもないのかなと思っていますので、ただ紙で動かない物よりも画像で見て360度回転させたり、また成長の過程をずっと見せていたり、というのはわかりやすいと思いますので、それは非常にいいのかなと思います。そういう意味では、必要な情報機器かなと思っています。

○衣笠好一教育長

これを進めていくにあたって、今、市長さんがおっしゃったような、例えば問題解決するような力はどちらかというとやっぱり身につけにくいというのは、これによってメリットあるんですけども、デメリットとしては、わからない問題につまずいたときでも、検索したらすぐ正解がぽんと出てくるので、ある意味それに頼ってしまうと解決能力を伸ばすのは困難になりますし、ネットでの情報に満足してしまって読書量が減ったり、またセキュリティの環境が伴わないのに導入すれば不正なアクセスがあったり、そういうデメリットの部分の部分をしっかりと踏まえた上で、こちらを推進していくというのはすごく大事なことだと思っています。

○登 幸人市長

こういうのはお金さえ入れれば導入できますから、それはそれでええんですけども。

○衣笠好一教育長

お金よりは指導力を、教師が上手に使わなかったらタブレットを全部入れても使えない。

○登 幸人市長

ここにも教員の情報教育、活用指導力の向上って書いてあるから、それはそうですね。

○山名克典教育委員

今聞いている話ですけども、高砂市内のデジタルコンピュータボード、いわゆる黒板の設置状況、設置率が低いということがあって、この前、教育長から話があったので教育長が今言うかと思ったけれど言わなかったのですが、やっぱりそういうのが学校教育、教師育成の中でこの前聞いてショック受けたのが、教師が新たな教育学部で最新の機器を使った授業のあり方という授業を受けていた。現場に就職して器材がなかったら教えられる。医療機関でもそうです。その機械がなかったら医者が来ないのと一緒で、先進の機械を置いてくれなかったらそこには大学から、病院の意向かもしれないかもしれませんが、医者は派遣しませんとか、話飛びましたが、教育施設にはきちんと最低限の設備がないと先生もやっぱり高砂には来てくれないだろうし、現に教育を受けた子が、昔の状態でそういうのでパソコンを使ったり、情報機器を使った物がなかったって、それも非常に

いいと思うんですけど、先生も戸惑いがあって、やはり習ってきた能力を十分発揮できないところがあったらすごく損だと思うので、設備を整えてもらわないとだめかなと思う。

先ほど言ったデジタル教科書に関しては、僕も市長と一緒に文字を読んで、本を読んで初めて、いくらネットで見たり、それで書かれている文字を読んでも、小説を読んでもそれは1個もおもしろくないです。1個も行間がないし、行の移り変わりにしても何でここでこんな変な行が変わるねんということになったり、流してしまったりしたら全体のつながりがわからないし、やっぱり行間にある深い意味を読み取るとか、そういう形からいくと国語教育にせよ、文字、ペーパーいうものは当然必要だと思う。いろんなプログラミングをするに当たっても意見の交換会になったときにも言うたんですけど、先生もそうなんです、生徒自身のあるレベルまでの教育レベルに達しない限り、ただただパソコンの端末機器の操作の仕方はわかるけど、問題解決に当たって、違う答えを求めて行くにあたっての思考過程が全然育たない。だから、あるレベルまでの教育レベルでボトムアップしとかなないと、ICTと言ったって取り残されていく人が出てくるので、今までの大事な教育というのはやっぱりある。ただ、わかりやすく使うためのツールとして、理解しやすいためにそういうものはある程度、最低限必要だということです。必ずしもこれが全てでならないと思いますが。

設備が少ないのは、設置されている器材が少ないということ。それと、重要な必要だというソフトがなかなか買えない状況が現場にあるということも聞きましたので、配慮をいただきたいとは思いますが。

○登 幸人市長

学校のほうからは、そういう要望は上がってきているのですか。

○衣笠好一教育長

上がっています。実物投影機というのがあるのですが、例えば教科書や何かを置きましたら画面に映って、小さい字のところを読みにくい子には大きくしてあげたら割と読みやすくなるとかいうのもありますし、何か物を置いて、1人の生徒が書いている様子なんかも全部、手元の様子はわかりませんが、画面に映すことによって理解しやすいという、結構使っています。それが今、高砂市の場合は、1校当たり3台ですけども、本当言ったら学級に1つは欲しい。

○登 幸人市長

現実にあるのですか。

○衣笠好一教育長

あります。1校につき3台。だから、取り合いというか貸してほしいということで、使いやすいし、子どもがよく理解しますので、そういったものはできたら増やしてほしいという要望は、結構現場からはあります。

○登 幸人市長

そうですか。それは予算要求は上げているのですか。

○衣笠好一教育長

予算は上げます。

○永安正彦教育部長

予算要求はさせていただいておりますが、ちょっとまだついてない。買えていない状況です。

○登 幸人市長

何台ぐらいあるんやろ。

○赤松祐人学校教育課長

1台15万ぐらい。

○永安正彦教育部長

1台、十数万というところです。

○登 幸人市長

何台ぐらいあるんやろ。予算要望で。大分上げているの。

○赤松祐人学校教育課長

現在、学年に1台で、できたら学級に1つあればというところはしたい。ちょっと今、資料がございません。

○登 幸人市長

全然話違うけれど、予算要望のときによくあるのは、横並びで各校2台ずつ。この校はこれがもっと必要としているから、ここは4台。ここはあんまり必要としてないから1台あればいい、そういうメリハリつけて要望できへんのかなと思うときはよくあります。

今そうしたら、何台ぐらい要望しているの。もう一回、ごめんなさい。十何台。

○赤松祐人学校教育課長

今ある分ですか。

○登 幸人市長

いや、今ある分は3台ずつあるんやね。足りないということは、もうちょっと欲しいということでしょ。

○永安正彦教育部長

学校側のあくまで理想ですけども、理想としましてはクラスに1台はいただきたいという。

○登 幸人市長

クラスに1台。

○永安正彦教育部長

はい。

○衣笠好一教育長

学校側の理想でもありますし、国の第２期の教育振興計画で目標とされている水準がクラスに１台です。それを目指したいという思いもあります。

○登 幸人市長

理想とするのは教育委員会あなた方から見て、それが妥当と思うのか、適正と思うのか、判断してもらわないとあかんね。

ありがとう。ちょっと話がそれました。

あと、先ほど出ました電子黒板なんかは、これは前からずっとある分でしょうけど、そんな要望はあるのですか。先生方に１台ずつパソコンというのは、それは配置されていると思いますけども、教室で使う分も配置してあるのかね。してないのかね。

○永安正彦教育部長

電子黒板機能をもったプロジェクターというものを配置はしていただいております。電子黒板そのものではないんですけども。

○登 幸人市長

電子黒板自体の要望はないの。わからへんかったらわかれへんでええねんよ、別に。

○赤松祐人学校教育長

電子黒板の機能を持ったものを今、部長が言いましたように現在入れております。

○永安正彦教育部長

要望は上げさせていただいております。

○登 幸人市長

それも先ほど言っていたように先生方が使いこなせなかったらあかんのやろうね。それを使って指導するというのか教えるというのか、指導要領か何かには書かれてあるのですか。電子黒板を使う場合は、こういうように教えなさいみたいな。

○衣笠好一教育長

それを活用して効果的に使いなさい、というのは指導要領には書かれていません。指導要領の目標を達成するために、これを使うことで効果があるというのは現場の声です。

○登 幸人市長

そういうのはあるんやね。わかりました。

今、プログラミング教育も含めて情報教育については年度が限られていますけども、それに向けて準備をされているということですのでよろしいですね。

○山名克典教育委員

予算請求になりますけど、この前から言っている教育に関するソフトの数が余りにも少な過ぎて、高度なプログラミング教育がしにくいという意見があった。それに関して、投影機あるいは電子黒板それに今度ソフトの分が非常になさ過ぎて、高度なもの、プログラミング教育がやりにくいという現実があって、ここ２年間の間にそれが本当に揃うかどうかですが微妙だという話。この前の教育委員会であつたんですけど、余りにもソフトがなさ過ぎる。初期のソフトしかないと言われたんですけど、それに関してどうなんでしょうか。

○赤松祐人学校教育課長

小学校でプログラミング的なものを実際にやっていくソフトっていうのが、例えばロボットを動かすようなソフトがあるんですが、ここからこの場所に命令をつなげていて動かすというようなものがあり、そういうものを実際に体験させたいんですけども、現在そういうソフトが入ってないところで、そういうことができないので、そういうような状況がございます。

○登 幸人市長

そのレベルというのは、その学校、何学年か知りませんが、要求されているわけですか。学校の先生がこういうことをしたいけども、ソフトがないからできないのだということなんですか。

○赤松祐人学校教育課長

新しい学習指導要領のプログラミング教育の中で、小学校ではそういう体験的なものをさせるということが示されていますので、実際に体験させたいのだけども、今の状態ではできない状況になっております。

○登 幸人市長

このプログラミング教育というのは、そういうようなことを言われていますね。実際に組んでみてA地点からB地点へ行くとか、どうやって行けばええとか、いろんなものを自分で組んでみるということですよ。それと同じことなんですか。今言われているのは。

○赤松祐人学校教育課長

はい。そういうソフトがあるんですけども、そういうものが今の段階ではない。

○山名克典教育委員

はっきり言って足りないのです。彼は遠慮して言っていますが、足りないらしいです。足りないということなので、そういう教育しなきゃならないレベルまでのソフトがないので、ちょっと現場では困っているという要望は聞きましたので、必要であれば要求しなきゃだめですよ。

○神尾信作教育委員

それと、プログラミング教育の教師のスキルが随分違うと思うのです。今50代の方、20～30代の方、スキルの差があいてしまうと弊害が子どもにいきますから、そのスキルを均一化するのがやっぱり先決だと思いますので、その部分ではやっぱりレベルをあわせるという面から見ると共通のソフトを、使いやすい教育のソフトがやっぱり必須なんです、新しいことを始める場合には。それが今不足だということであれば、補充していただいて、みんな同じような教育環境でスタートできるということがすごく大事だと思います。

○吉田美香教育委員

子どもたちのこの学習が始まるのは2年後ですね、小学校は。それまでに全国レベルで不公平じゃない教育が受けられるのに絶対いるもの、っていうのを精査して、絶対いるものはやっぱり買っていて、その地域に住んでいる子と不公平のないようにし

ていただきたいと思いますし、私は必ずしも全部いるのかな、って個人的には思うんです。現場の先生が、この方が手間がかからないからとか、そういうことも大事かもしれませんが、いろんなことって愛情がこもるじゃないですか、変な言い方ですけど。だから、そういう子どもにとって本当に良いという使い方に限ってしないと、タブレットをたくさん購入して投資をしたけれども、結局使いこなせなくて今大変なことになっているという地域もあるわけですね。ですから、いろんなことを考えて無駄遣いをしないように、絶対にいるものだけは揃えていただけるように精査してお願いします。

○山名克典教育委員

市長が今言われた各学校で要望が多々あっていいのじゃないかいうことは、コミュニティ・スクールの問題と一緒に、予算請求があって、予算化があって要求できる。その学校が必要なものを要求できるような体制になってきたら、それぞれの学校のレベルに応じて、学校の特色、学校がどういうことに重点的にやっているかということの特色が出て、予算請求も出てくる。小中一貫の理念的なものとして、僕が理想としたのは各学校がそれぞれの特色あるやり方をやるのだろうと。それがあって中学校に小学校もついていく。それぞれの校区の中で特色あるいろんなことが、話が飛びますけど、高砂市は、学区校区1個やった。理想としては、その中で選択できるような、行きたいところへ行けるような学校、高砂市の教育がそういうものになったとしたらすばらしいなということ。そこまでの過程としてそういうのはありかな。だから、先ほど市長が言われた各学校の要求が横一並びじゃなくて、差をつけないで請求するのも確かに今の現実としてはそうだと思うけど、行く行くはそうあるべきかというのはすごく思うのです。学校のニーズとして。学校がやる気がないならそこには要らないということになるし、一生懸命やっているところにはもっと買ってあげていいし、そういう臨機応変の対応をできたらいいなと思います。

○登 幸人市長

そのためにコミュニティ・スクールというのは、校長先生の教育方針をそこへ言うわけです。教育方針というのは、指導要領に定められたものは、最低限絶対的なことを書いてかなあかんで、そのプラスアルファというのは各学校に僕はあってもいいのと違うかな。それは校長先生の教育方針によって違ってくると思う。それはそれで受け入れられるとちがうかな。学校間格差が出るとか、学校間競争が激しくなるとか、そういうようなことが言われるかもわかりませんが、私は公立の中であっていいのではないのかなとは思いますが。それが激し過ぎて過度な競争やとか、過度な格差が出てしまうと、教師に余りにも負担が大き過ぎる、生徒にも負担が大き過ぎるとか、そういうことになってきたらまた弊害も大きくなってくるかもしれないけど、そうでない中でのそういう差はあってもいいとちがうかなというのは思いまして申し上げたんですけど。

実はこれ予算の話ですけど、パソコン入れるときにもそうやったと思いますけど、20台やったのを40台にしたり、これは僕がやりましたが、あのときに一番困ったのは、パソコン1台について全部ソフトがついてくるので、各学校で1つだけ買ったら、ソフトが1つで、あとは全部コピーできたら一番いいんですけど、コピーできへんのやね、ソフト。パソコンの値段よりもソフトの値段のほうが高いねんね、2倍、3倍。それでもっと精査してくれ言うたのは、私が覚えています。ただ、精査して外された中に今言われているソフトがあったんかどうかは知りません。新たにそれが出てきて、そういうものがやっぱり子どもたちにとってはいいね、というものなのかもわかりませんが、そういうものはまた要求なり要望なりをしていただいたらどうなんでしょう。要望しても、だめやって言うかもわかりませんが、それはそれでまた違う方法で実現できる

ようなのに、教師の皆さんにもちょっと工夫をしていただくというようなこともお願いできるかなと思うんですけども。

今まで教育委員会から予算が出てきて、私がやめとけって言ったことあるかな。あるかな言うたら、いや、ありませんって言うてくれるのは別にあれやけど、抑えって言うとなん違うんやろ。大体通したはずですけどね。

○衣笠好一教育長

教育委員会自身が、最初に何も要求もせんと遠慮して言わない場合も結構、今まであったようには私自身は感じているので。

○登 幸人市長

後で決められてしまうからね。前年対比何ぼや言ってね。

○衣笠好一教育長

その中で、どれやと言ったら精査して、これとこれかなって引いてしまうのがあるので、これからは言うだけは言わせていただいて、必要であればお願いして、ただICTの関係いうのは、市長に行ってください、と言われて行ったシンポジウムの中でも結構早く整備した市町は、結局クラスに全部40台パソコン入れたりしているけども、容量オーバーでパンクして古いやつは動かへん。今は結構進んでいるので、そういったこともあるので、ソフトにしてもすごく進化するのです、年々。それもきっちり考えて、せっかく導入したけども何年かしたら、お金かけているのに使えないようにならないように、ソフトの意味で長いこと、せめて10年ぐらひは、5年ぐらひはきちっと使って、その価格に応じた効果が出るぐらひのものがどれなんかいいうこともあわせて考えないと、すごく進歩しているので、そのあたりもしっかりと踏まえた形での購入量が必要かなというのはいいます。

○山名克典教育委員

口挟みますけど、この時代の進歩について行こうと思った時には、耐用年数の幅広く使おうという意識を持って、もったいない思想かもわかりませんが、それをもうちょっとやっぱり進歩について行けない可能性があるから、今の意見ではそういうのはなしで、新しいソフトは出たら、それは新たに購入することについていかなあかんから、僕は新たなものについて飛びつくわけではないですけども、ある程度言わないと、だから変に誤解を招くような発言になってしまったんですけど、僕が変に誤解したんですけど、結局、古いパソコンを早目に入れたら、古いからあかんかって、そしたら何年かのうちに入れても将来いいのが出るから、来年やったらもっといいのが出ると言ったら、それこそ後手で時代おくれも甚だしいと思うので、そこはきちんと1回入れてみて、使ってみて、新たなものが出てきたらまた変えていくぐらひの、新たな先取りの形を持っていかないとあかんので、あらゆることを全部いろんなビジョンを持っていても、待つとったら絶対だめなので、思ったことはやっていくようなことをしていくために、多少の無駄はあつてしかるべきだと思う。そういうことをやらないと後手に回るから、教育に関しても一大改革できないのだろうと思いますからやってほしいです。

○衣笠好一教育長

やりたいと思います。

○山名克典教育委員

もったいないって言ったら、あかんなと僕は思っていますので、頑張ってください。

○登 幸人市長

財政局としても認識を変えて、新たにさせていただきます。
この件に関してありますか。

○布施隆志教育委員

パソコンだとかは、私が大学生の時には余りなかったものですよね。研究室に1台しかなくて、やはり過去にさわった人っていうのは非常に積極的に利用できるんだけど、私はPC98なんか100万もするようなやつは、ようさわり切れないので、結局、社会人になってパソコンのレベルは、さわった人とさわってない人では各段に差が出てきたんです。

だから、子どもたちも同じだと思うので、さわる機会をできるだけもったほうが将来勉強の進み方が全然違うと思う。後になって私は、必死になってパソコンを勉強して、やっと普通のレベルに追いついた感じなんで、その苦労から考えた場合には、若いうちから早くIT関係だとか、触れ合うような機会を十分与えないと、他の人たちと乗りおくらせてしまった時、子どもたち、私もそうだったんだけど非常に苦労するので、その辺も重々よろしく願いいたします。

○登 幸人市長

この件、一応、今、目標しているのは32年、33年ですけども、それに遅ないように、間に合うように教育委員会としてはしっかりと準備をしていただく。今、不足しているものについてもお話もありましたので、そういったものについては今後、十分お話があればさせていただくということで、この件は終えたいと思います。

この3番目に行きたいと思います。

3番目、学校施設の環境整備。今度はエアコンの話をさせていただきたいと思います。これは、前から教育委員会サイドからもエアコンの設置については御要望いただいておりますですけども、改めて今年の暑さというのもあります。そこで、教育委員会のエアコン設置に対する考え方、今までは市が言っておる事業計画があつて、それがスケジュールの中には入れているけれども、今はいつやるかわからない。5年以降、10年の中でやりますよということで、その事業が入っております。そういうスパンでのエアコン設置でいいのかどうかも含めて、その設置時期や、そういったものについて今のお考えをちょっと教えていただけたらと思います。

○山名克典教育委員

もう有無を言わず即座にいつでも。早ければ早いほうがいいと思います。前から市長等言われているように授業日数を増やすにしても、学力を上げるためにも夏の時間に勉強しようかと思ったら、こんな状態だったらとてもじゃない。クーラーがないとできない。やはり勉強する環境を整えてあげない限り絶対だめだと思う。非常に残念なのは2年間要望していたが、他市も国まで言い出した時になって、慌てて認めてやるからやれって、しなきゃならないような状況において考えを変えていただいた。だから、1日でも早く子どもらが熱中症にならないように、勉強できる適切な、ここにも書いているように、ある程度気温が下がった涼しいところで勉強しないと、家の中での生活もクーラーが整って、体が慣れているから、今も高校野球やっているけど、慣らした子は別で、どちらかというと鍛え上げた別人ですから、それとは違う9割以上の子は普通の子で、今の甘やかされたというか、ぬるま湯につかったような状態でありますので、そこで鍛えと言

うのは無理ですし、これだけ暑いとやはり環境が余りにも悪化して子どもを虐待しているような感じになってしまう。これに対して積極的に動かなかつたら保護者からも文句が出るでしょうし、環境が整ってなかって、授業中に熱中症で死んだりしたら本当どんなことになるだろうと、そういうことにならないように1日でも早くいろんな策を講じていただいて、1日でも早く設置していただきたいと思います。

○神尾信作委員

私も全く同意見です。1日でも早くしていただけたらうれしいなと思います。

つい最近の新聞を見ても、この暑さのため夏休みを遅らせて、2学期の始業式を遅らせるということを検討しているようなところもあるというふうに、つい先日、新聞にあったように思います。これも暑さ対策だと思いますけど、私個人のことを言いますと、平成25年の秋ですが、学校給食にしましょうか、エアコンにしましょうかというようなことをちょっと代表校長、小学校、中学校ちょっとヒアリングを受けたことがあるのですが、そのときにも小学校も中学校もどちらも、現場とすれば両方とも欲しいのだけでも、二者択一であればエアコンだろうというふうに意見を申し上げたのですが、残念ながらエアコンではなくて学校給食のほうに舵を切られたわけですが、その辺のいきさつからも考えまして、現場は1日でも早いエアコンの設置を望んでいると思いますので、ぜひ一日も早くエアコンをつけていただけたら、いろんないい効果がつくのかなと思っています。よろしくお願いします。

○布施隆志教育委員

私も学力向上と抱き合わせてやるべきだと思います。平成28年からいろんなところで各市で操縦エアコンを設置しています。かつ、夏季休暇を3日間減らします。勉強のほうに力を入れます。学力向上につなげます。というのは、もう訴えて実際にやっていますよね。やって結果を出しているところもかなりあります。具体的に言うと、明石とかは非常に結果が出ている。小学校のレベルで言うと、高砂と学力調査結果を見ても変わらないです。高砂の場合は、平均点よりも下回っている。それに比べて明石の場合は、中学校全教科、全て3点ないし4点はプラスです。

もちろんいろんな施策はあるかもしれないけども、やっぱり勉強しようという市全体の方針、学力を向上させようという方針をもってやっている。その姿勢を見せるためにやっぱり全てエアコンを平成28年には設置して、中学校から3日間の休養日を減らす。小学校も設置、29年には全学校に設置する。学力を向上する。やっぱりそういう強い方針をもってやるべき。高砂も今の状態を打破するにはやるべきだと思います。ぜひ、お願いします。

○吉田美香教育委員

事情が全然違ってきたっていいですか、特に今年、命に関わるような状況だと思うのです。今まではしていただけたらありがたい、っていうのは何年も思っていましたけれども、そんなこと言っている場合じゃないのかな。本当に誰か死んでからじゃ遅いよみたいな状況に今年はある気がするんです。今日会議の項目に市長さんのほうから上げてくださったっていうのは本当にうれしくて、そういうお気持ちになってくださったんだと思って喜んでます。子どもたちが私たちと違う育ち方をしていますから、暑さには免疫を持っていません。そういう子どもたちなので、その子どもたちに合わせた環境じゃないといけないのかなと思いますので、できるだけ早くお願いいたします。

○登 幸人市長

入れる場合に体育館はどう思われますか。

○山名克典教育委員

やはり体育館には大型を入れる。クラブ活動で問題なのは、屋外でやるクラブ活動も事実問題あるんですけど、今の暑さ指数に関しては超えたらすぐ止めなきゃならないですけども、体育館の中のバドミントンとかバスケットとか、その中は本当に蒸し風呂で40度を超えるような状況でやっている。外で朝礼あるいは集会ができない。そういったとき体育館へ行く。体育館に行ったほうが余計暑いという形になってしまったりとかするので、今後、例えばハザードマップに出ているものとして避難所みたいなことがあるんだとしたら、当然、入れとかなきゃならないだろうし、いろんな面からも考えて体育館にもきちんとしたクーラーも入れとかなないと、それは非常に配慮不足という形で言われるだろうと思う。実際、子どもがスポーツを体育館内でやるのが一番暑さ指数がきつくてかわいそうだと思う。体育館でやっているスポーツで熱中症的な形で出ている子が多いかなと思います。

○神尾信作教育委員

体育館でスポーツする場合に、窓をあけて風通しをよくすればいいですけども、例えばバドミントンなんかは、その風の影響とか、あと上に上がったシャトルが見にくいとかいうようなことで、わざと窓を閉めてカーテンを閉めてするような種目もあるわけで、そうすると当然屋外よりも体育館のほうが暑い。蒸し暑い。危険度も増すということはすごくあるので、やっぱり体育館も必要だと思うのです。

○登 幸人市長

ありますか。一緒に。

○神尾信作教育委員

一緒に、全く。

○吉田美香教育委員

この間、大雨で体育館に避難された方たちが、暑さで体調を崩されていましたよね。

○登 幸人市長

そうですね。

○吉田美香教育委員

はい。だから設置できるクーラーみたいなのをいっぱい並べて対応していらっしゃいましたから、いざという時にも使われるんだと思いましたので、あったほうがいいと思います。

○登 幸人市長

竜山中学校で7月やね、あれ。体育館やったよね。

○衣笠好一教育長

体育館もあります。

○登 幸人市長

立て続けに3人かな。救急車で運ばれたよね。体育館で授業やっていて。外でやっている子は無かったような気が。

○山名克典教育委員

すごく憤りの1つとしては、高砂市内の学校には、何年か前から暑さ指数を測る温度計があるんですよ。それを設置していたと僕は思っていたんです。ところが、教育委員会のミスですけど、各学校には体育館には必ず置きますという形で話になっていたのに置いてなかった事実があるんです。今は、加古川と明石と姫路のそれに出てくる暑さ指数のモニタリングを見て暑さ指数が31になったら一切の運動はやめましょうと、そういう形で動いている。僕は当然、置いてもらっていると思っていたから、各学校何でそれを見るのかな、利用してあるでしょって言うたのに無かったことがあって、内部の教育委員会の恥だと思うんですけど、子どものことに関して危機感の無さやと思っているんです。そんなもん何で要る、という感じの感覚があったのかどうか知りませんが、何で置いてくれない。7、8年前から言っているんですよ、あれは。言っているのに置いてなかったことがあって、非常に憤っているんですけど、そういうものも実際には各学校、それぞれの体育館とかそういうところにあるべきで、そういうのを見てしないと、何の指標もなく、ただただ体感だけで、ただ温度高いね、だけで、暑さ指数を測ることなくやっているから、事故が起こって、危機意識の低さで倒れて初めてあわてふためいて、測る物あるでしょ、置いとったでしょ、と無いって言ったら、どういう責任の追及の仕方になるんやっていうことになりますもんね。非常に憤っています。

○衣笠好一教育長

過去の方のことを悪く言えないです。

今おっしゃっているのは、暑さ指数の測定器を持ち運びができるやつですよ。

○山名克典教育委員

三脚なんかで立てて、そこに置いとけるようなやつがあるんです。暑さ指数を測って、数字がきちんと出るんです。普通の簡単なやつでも温度計と湿度計がついているデジタルになったら、簡単に、危険、にこにこ顔とか、あれも一緒ですけど、ほとんどそれに近いデータの分があるんやけど、そういうので測って、きちんと環境整備、環境の状況把握いうのをして運動をさせないとやばいでしょということ。

○衣笠好一教育長

確かに熱中症の予防サイト、環境省のあれを見ますと、あれは運動場とか教室とか体育館がありますよね。そういうのを見たら、やっぱり運動場よりも体育館のほうが温度は高いというのはありますので、神尾委員さん言われたように部活動でも、あんまり部活動で涼しくしてあげて3時間も4時間もやられたら困るというのは一方でありますけども、でもやっぱり環境を整えるというのはきちりと、そういう情報サイトだけでなくて今、委員さんおっしゃったようにその場所場所の測定器というのは必要性を感じておりますし、学校によっては養護教諭が、山名さんおっしゃったような立派な物じゃないですけど、測る小さな物がありますので、これを持って行ってそれぞれの体育館であるとか教室であるとか運動場であるとか測って、保健室の前に時間毎に10時、12時と書いて、そこに何度ですから活動を中止とかいうのを示して、それを見て担任が対応している学校もありますので、学校の先生に任せてだけとか、養護教諭に任せていうので

はなくて、やっぱりこの状態の中で全市的にきちっとそれを整えていくのは必要かいうのは感じております。

○登 幸人市長

それは無いんですか。

○衣笠好一教育長

それがわからへん。叱られますけど、以前に言われたということは。ここ何年、もっとうずっと前におっしゃっていたことを山名委員さんのアドバイスでそういうのを設置する。

○登 幸人市長

それで、その基準があるわけですね。

○山名克典教育委員

子どもが来た時、患者さんたちが来た時、クラブやっていた時、「今日の数字どんなんやったか、体育館に有るやろ」とか言うたら、「何それ、無い、無い、知らん、知らん」って言われて、えって感じで、「有るはずやけどな」って言って、来るたび来るたびみんなに確認したら結局は無かったわけですけども、非常にショックを受けて、明らかに31度は絶対にだめ。だから、あらゆるクラブはやめましょう。運動はやめましょうという危険状態です。テレビでも言っているように、運動は絶対だめですよ。そういうのが無いから運動させてしまう。指標がないから、測ってないからついつい、今日はこのぐらいできる、という本当曖昧な感じで、子どもの命を預かっているのに、そんな曖昧な形でさせてしまう。今の灼熱状態でさせてしまうと、責任追及が出てくると思う。わかっていたやろということになってくるから、学校としての子どもの健康管理をする以上は、命を預かっている以上は、あるべきものがあって、そこできちんと判断できるという器材はあらなあかんと思います、絶対。各他の学校では、他の市では有る状態になってきていると聞いているんで。

○衣笠好一教育長

僕も一応その辺聞いてみたんですけども、先ほど山名委員からあったように当市では姫路のサイトに暑さ指数の数値がずっと1時間ごとにリアルタイムで出てくるので、31という数値になったら校内放送をしたり、チャイムを連続3回鳴らすとか、そういう合図でもって運動、部活動を自粛するということに今は実際にやっています。姫路の状況ですから隣といっても当然違うし、姫路のどこでやっている数値かよくわからないし、同じ学校の中でも体育館とグラウンドでは違うということで、本当に正確なデータを拾おうと思えば、山名委員さんがおっしゃったような測定器がないとだめだと思うんです。今、現場はそうじゃない。姫路のデータで対応しています。

○布施隆志教育委員

各そういう特異的なところでも全部置いていって、例えば基準をスパッと決めちゃって、数値化で管理するようにすれば、ただ完全じゃないですけども、管理という意味では確実にできるんじゃないかと思います。

○山名克典教育委員

あれには数値できちっとランク別には書いているのです。段階別があって、ここまではこの運動、ここまではこの運動と、きちんとそう書いてあるんです。それが環境省からきちんと出ているから。

31は絶対危険、絶対だめいうことになっている。それまでの間の30とそのぐらいの激しい運動、ランニング等、外でのそういうのはだめとか、いろいろ既に決まっていることなのです。全国レベルで統一されたことがあるんです。それを守らなかったら、何かあった時の管理不十分ということ、状況把握ができてないとかになりますから、それはあかんと思います。

○登 幸人市長

資料にあるのは、これは温度なの。

○衣笠好一教育長

これは気温です。

○登 幸人市長

気温だけ。31というのは。

○衣笠好一教育長

暑さ指数。

○山名克典教育委員

暑さ指数のことです。気温が33度ぐらいで、湿度が60ぐらいとかなってきたら、それで30、31ぐらいが出てきて、そういう計算式みたいなので勝手に数字が計算して出してくれるんです。

○神尾信作教育委員

気温と湿度と輻射熱と3つで計算して、リズム的に暑さ指数が出てくる公式みたいなものがあるんです。

○衣笠好一教育長

それをもとに姫路あるいは明石どちらかで31以上が出た場合は、全部中止してくださいという通知文を出して、それを今、結構守っていただいているけども、それに加えて山名先生おっしゃった携帯用の部分でそれぞれの場所でも測っていくのを併用したほうが、より効果がありますね。

○山名克典教育委員

今やピンポイントです。そのエリアという発想がないから、雨でもそこはピンポイントです。暑さもピンポイントですよ。環境が全然違うからね。

○吉田美香教育委員

家庭用の簡単なのがうちにあるんですけど、うちの家ぐらいのスペースでも部屋によって違うんです。1階と2階でも全然違いますし、だからやっぱり場所場所で本当にちゃんと測らないと安心できないんだなと思っています。

○登 幸人市長

教室の中で指数が31を超えたら、もう授業はしない。

○山名克典教育委員

そうです。それはもう絶対。運動しないんですよ。

○登 幸人市長

運動の指数なんやね。

○山名克典教育委員

運動しない。それは運動しないで室内の涼しいところにおってくださいだからね。クーラーが効いてなかったら何にもなりませんけどね。

○吉田美香教育委員

一応、公に言われているのは、31を超えたら野外、体育館での運動は中止しましょう。それから、室内ではエアコンをつけましょう。それと、小まめに水分を補給しましょうって、この3本柱です。

○衣笠好一教育長

運動に関する指数いうことですから、学習している状況とはちょっと違うんです。

○登 幸人市長

それともう一つ、私、前からエアコンをつけますよ、というのを言っていましたけど、時期はもうちょっと待ってください。それとともに条件づけで先ほども言われましたけど、やっぱりエアコンだけつけてそれで終わりというのはちょっともう一つかなと思うし、先ほども色々話ありましたが、もうちょっと学力の向上のほうに対策というか、そっちのほうもやっていただくということも大事なかなと思います。エアコンは今、考えていますのは、まとまればですが9月の定例会に予算を上げようと思っています。ただ、上げて例えば工事方針で、今までは設計して工事請負業者に工事をさせるという方式で行けば、約30億ぐらいやと思います。全校16校、小中全部入れて16校、ぐらいうったと思います。30億で、あとPFIとかリースとか頼んで、リースはちょっと安くなるようです。20億ぐらい。予算で20億ですから、入札したらもうちょっと安くなるかもわかりませんが、それぐらいの金額に一応なります。ただ、工事請負でしたら2年ちょっとかかります。リースであれば1年半ぐらいうったかな。そのぐらいくかる。1年半ということは、9月に上げて来年の夏が間に合わない。ただ、学校によっては間に合うところも出てくる、間に合わないところも出てくるということですから、それはもう辛抱していただこうかな。今、リースでやったときの補助がつかないのです。国からお金がもらえないのです。だから、全額市費でやりますので、その覚悟だけをしとかないかんかな。

それともう一つは、ランニングコストで毎年、電気代と補修委託というのが補修料等に1億2,000万円ぐらい要るかな。電気代が1億円、あと補修委託料が2,000万円、1億2,000万。それがこれからまた毎年上乘せしていきますので、そこも覚悟しとかなあかんかなというふうには思っておりますけれども、そういう状況の中で、今どうしようかということを経営的には決めると思いますので、この定例会では何かの形で表明あるいは予算措置をしていこうと思っています。そんな状況ですので、教育委員会にも、来年入りますから、入る時にはきちっと夏休みも半分にするとか、そういう大胆な、子どもさんらに遊ばせたらあかんわ。勉強させなあかん。それぐらいの何か対

応は1つお願いしたいと思います。1つまたよろしく申し上げます。

あとどこへ設置するかというのは協議をしておる最中で、特別教室もということで今、伺っていますけども、体育館はちょっとどうかなということで、これは職員間同士で話をされていますけども、先ほど言われたように体育館も、私、夏の暑い暑い時に体育館での試合を見に行ったんですけど、そりゃ暑かったです。2階へ上がって見てくださって2階で見た。そりゃ暑かったです。窓は開いていたんですけど暑かったです。

そんなことで、できるだけ早く入れさせていただきたいと思いますので、もう少し御辛抱いただきたいと思います。

この件については、これで終わらせていただいて、あと最後になりますけど、全国学力テストの報告の結果が新聞等でも出ていましたが。それについて、今現在での高砂市教育委員会としてどのような対応をされているか、把握をされておるか、それについてどのように思っておられるのか。今までの教育も含めて今後どうされようとしているのか、そういった点を御報告いただけませんか。

○赤松祐人学校教育課長

まず資料の方をお配りしたのは、

5ページにつきましては、高砂市の学力の現状と今後の学力向上についての取り組みということでまとめております。

平成29年度の調査結果の分析から課題を3つと捉えております。

1つ、一番上の箱の中ですけども、これは正答率から見た課題として、学力低位層のボトムアップ並びに上位層の引き上げが必要ということです。2つ目、真ん中につきましては、無回答率、問題真っ白で回答したという率ですけども、そこから見た課題として学習に対して主体的な取り組みが必要である。一番下、3つ目につきましては、児童生徒質問紙の結果からの課題ということで5つの力のアップが必要で、これら3つの取り組みが必要であるというところで考えております。

その裏の6ページのほうへまいります。

6ページにつきましては、本市調査結果の平成26年から平成29年の推移をグラフにしたものです。

平均正答率、何%というもの、年によって変動がありますので、こちらにつきましては、数値は平均正答率ではなくて全国平均正答率を1として、本市の正答率を示しております。グラフの中の1.00の横の点線の部分が全国平均をあらわしております。実線グラフが本市の全国平均正答率を1とした場合の正答率というところでお示しております。

○永安正彦教育部長

資料は以上でございます。

それと、平成30年度の結果でございますが、30年度につきましては現在分析中ということで、分析が終わり次第また御報告をさせていただきたいと考えてございますが、前年度、29年度と比べて改善の傾向にはございます。試験によりましては、全国と同レベルまで改善されたものもございます。

それと、学力向上に向けての現在の教育委員会の取り組みでございますが、大きく4点の項目で取り組んでございます。

まずは授業の工夫改善が1点目。2点目としまして、補充学習と個別対応。3点目としましては、家庭学習の充実、定着。それと4点目としましては、組織的な対応というふうなところでございまして、まず授業の工夫改善につきましては、こちらの学力テストの分析を各校ごとに行いまして、それを各校ごとに学力向上の取り組み計画書、教育

委員会では学びんぐVプランと申しておりますが、取り組む計画書を各校でつくっております。それで全教職員でそのような取り組みを実践しておるといところでございます。

それと、指導力の向上のための研修会、またALTなどの活用、それと研修の一環としまして教育課程の研究校というのを毎年、小中学校を指定しまして、課題について研究していただきまして、市内で情報共有をしていくというふうな取り組みをしております。

それと、補充学習や個別対応についてでございますが、全市的に行っておりますのが、高砂市計算検定、こちらを継続的・系統的に継続して行っております。それと、1週間を通して学習単位の設定をしまして、その中で基礎学力の定着のために学習や読書の時間を設けて取り組みを行っております。また、放課後につきましては、高砂がんばりタイムというのを作りまして、放課後の補充学習を行ったり、また授業中におきましてもスクールアシスタントや学生スタディパートナーを活用して生徒への学習の支援を行っております。その他、放課後子ども教室等により基礎学力の補充の場の提供も行っているところでございます。

家庭学習につきましては、新中学1年生へ、でございますが、春季休業中、春休みの間に入学前から家庭で行う学習課題を配付して家庭で行っていただいております。それと、家庭学習の啓発資料、これは市共通のもの「グーチョキパー」というものがございますが、これを配付するとともに、各学校でも家庭学習の手引きを作成して、各家庭に対して家庭学習についての定着を図っているところでございます。

最後に、組織としての対応でございますが、高砂市確かな学力向上会議というものを設けまして、平成26年度まで全市的な対応を行ってまいりました。その後、平成27年度からは、先ほど申しました学びんぐVプランの連絡会議に改変いたしまして、各校の取り組みについての情報交換及び共通理解をはかっております。そして、今年度からはそれがまた新たに改変いたしまして高砂市学力向上対策会議として、さらに積極的な取り組みを行っているところでございます。

○登 幸人市長

さっき言われた中で、このグラフを見たら改善傾向にある措置として、私は、改善傾向にあると思わないですけど、全国平均から言うと低下傾向にあるのではないかな。全国平均に近づいているとはどれも思わないですけど、それはどうですか。

○永安正彦教育部長

すみません。教育部長です。

こちらのお示しいたしておりますのは、平成29年までの結果でございまして、平成30年につきましては資料としてはお示しできていなんですけども、改善しているものもあるということです。

○登 幸人市長

傾向もあるというのは、何件あるの。どの分が改善傾向にあるんですか。

○衣笠好一教育長

小学校は国語の知識A、活用のB、それから算数の活用のB、理解につきましても、平成27年に比べると全て29年よりは改善の傾向があります。

それと中学校も29年と比べますと、全ての項目で改善傾向がある。

またしっかりと分析し、今、途中ですけどもできましたら、資料等でしっかりと分析

したものをお示しできると思いますので、またお示ししたいというふうには考えています。

○登 幸人市長

もう一つお尋ねしたい。この資料の1枚目で、囲い書きで見た課題という3があるんですけど、これは毎年同じではないんですか。何で今年だけこういうふうな格好になっているのか。毎年同じことであるんやったら、先ほど今後の対策って言われましたけど、それも一緒ちがうのかな。それはどうなんでしょうね。今までと同じことをしておったのでは、答えは見えてこないではないのかな。そこら辺はどうですか。

○衣笠好一教育長

市長おっしゃるとおりで、今ここに載せています、例えば学力低層のボトムアップ並びに上位層の引き上げとか、または学習に対しての主体的な取り組みが必要であるとかは、昨年度までも同じような課題がありましたので、さらに取り組んでいくという、この表現だけではそういうことです。あと、5つの力のアップというのは、去年の結果を分析した結果、こういう力が必要だろうということで、今後は全市的に取り組んでいくというものです。

具体的に言いましたら、例えば学力の低位層の子どもたちをボトムアップすることと、それから上位層の引き上げのことで言うと、学習と個別の対応という中で話がありましたけども、見ましたら先ほどは出ていませんでしたけど授業実数の確保いうのができていないとちがうかなというのもありましたので、決められている実数をきっちり各学校で保障しているかどうかという部分では、学校行事があったり、いろんな形でやられていますから、そこらあたりがちょっと甘い部分があるように思います。きっちりと授業を確保するのがまず大前提にあると思いますので、今、現場のほうに投げかけているのは、例えば中学校で定期テストの最終日は授業しなさいとか、次の日は予定がある、次もある、最後の日には帰るだけなので、午前中で帰すのではなくて授業もやろうとか、または長期の休業中に個別懇談会、保護者を呼んでの懇談会をやってしまう。授業を昼までにして、生徒を帰して懇談会をするのをやめて、授業をしっかりとやって、夏休みに入った段階で個別懇談会をするとか、そういうことで時間をきっちりと確保していくこともやっぱり大事だと思いますので、学校の現状を見て、具体的にここをこういうふうにしたらどうか、ということは今言いました。組織、教育委員会が上から言うと、ちょっと反発したりすることもありますので、それを投げかけて学力向上対策会議の中でもんでもらって、全市的にもそういうのを見直していきましょうという話をしています。

それと、校長の会議の中で出たことで1つよい傾向が出ているのは、家庭学習の中で、「グーチョキパー」という話がありましたけど、それをつくって市としてはやっているんですけども、各学校ではばらつきがありまして、学習の手引きみたいなものをつくって保護者にきっちりと学年に応じた啓発をしている学校もあるんですが、やってない学校もあるってわかりましたので、それを話し合って今後は全部の学校に手引きを作成していこうということであるとか、保護者への啓発はしていくけども出しっ放しの宿題ではなくて、きっちり評価していきましょう、そういった話し合いが今なされていますので、教師の意識を変えていくことがまず一番で、それを一方でやるような形はしているので、具体的に家庭学習を充実させるということは言っているんですけども、今回の学習の数値のことはまだできていません。

質問紙というのが、学校の校長先生とか、学校の質問紙の中で家庭での学習方法などを具体的に上げながら教えるようにしましたか、とかいうふうな質問も多いです。学習、

宿題を出しっ放しじゃなくて、どんなふうにしたらいいか、こんなふうに取り組んだらできるか、具体的な例を挙げながら教えるようにしましたか、というのが、ちょっと話題に出た大阪が19%の数字だったらしいんです。秋田が59で成績がいいので、これだけの開きがあるっていうことは、高砂で調べましたら、全国平均は小学校で40%ですが、高砂市の小学校は50%程度で全国レベルですけど、中学校は国が32%に対して高砂市が17%ですので、中学校の先生方が家庭での学習も具体的に学習方法を指導するということが必要じゃないかということを感じます。そういったこともここにあります学力の向上対策会議の中で校長先生方にも考えていただくということで、具体的にこういうことをしたらどうかということ、ぼやっとした形じゃなくて、そういうのを一つ一つ示しながら、教師の意識を変えていくと同時に取り組みについても具体的な形で指導していくことが必要だと思います。今ちょうど3回した中で、徐々に先生方の意識が変わってきているというのは手応えとしては感じてはいますけども、それを変えただけで、それを実際に行動に移すということになりますので、教育委員会はきちっとチェックしていかないとだめやというのは実感したところです。

○神尾信作教育委員

それまでも家庭学習の大切さもどの保護者もわかっていることですけど、今、教育長さんがおっしゃったように具体的な部分で親は当然、家庭学習をするほうがいいというのはわかっているんですけど、具体的に何をするかという具体策で行き詰まっているところがある。教育長がおっしゃったことももちろんそうなんだけど、ただ中学生には教えられるかというとなかなか教えられないのが現状だと思うのです。ですから、そこを望むのは無理なので、僕が思うのは、例えば横に30分でも1時間でもいいからおってもらいたいと思うんです。保護者の人がおってください。そこで、お父ちゃんお母ちゃんおじいちゃんおばあちゃんはお本を読んでいてもいいし、自分の趣味の手編みでもいいし、ただパソコンさわったりとかスマホさわったりとか、そういう趣味じゃなくて、子どもにしたらお父ちゃんお母ちゃんおじいちゃんおばあちゃんが勉強いうのか、作業しているみたいなことでいいから、教えられることはもちろん教えてほしいけど、とにかく横におってほしい。中学生に教えてください、保護者にとってはハードルが高いので、横にいてくれれば僕はいいと思う。でも横にいないと思うんです、今の保護者やおじいちゃんおばあちゃん。勉強したか、宿題終わったか、と声かけで終わっていて、それじゃあするわけないと思うので、その部分の具体策をぜひ学校からも、あと社会教育とかいろんな場面からこういう方法で子どもたちに接してくださいというその具体策をこうしましょうみたいなことを言っていたきたいと思うのが家庭学習について1つ思うことです。もう一つあるんですけども、今までちょっと違うことという発想で僕が思ったことで、例えば課題1番と2番の学力低位置のボトムアップ並びに上位層の引き上げと、あと学習に対して主体的な取り組みが必要ということ、これをうまくする1つのツールにならへんかなと思うのが、小学校で結構やっているコの字型授業。それを中学校もやったらいいと思う。それも小中一貫の1つとしても取り組めるし、あとコの字型のメリットは、顔を見合わせてお互いしゃべり合う、話し合う。中学校はそれを騒がしくなるとして警戒心がある。一部では取り組んでいるんですが、なかなか取り組めてないです。でも、やっているところもあるんです。それを全市的にやる。

そうすると例えば今回の全校学力学習状況調査の質問項目の中に話し合い活動を通じて考えを深めたり広げたりすることはできましたか、それをやったと答えた生徒たちのほうが正答率が高いとか、そういうデータがあるんです。あともう一つは、知識の定着のピラミッドみたいなのが、これよく使われるやつと思うんですけども、どういう形で授業をすると知識が定着するかというピラミッドがあって、例えば講義だけだったら

5%、読解は10%、視聴覚を使うと30%、他者に教えると90%に知識が定着するという。まさしくコの字型の何がいかというと、こうやって話し合いができるからわかっていない子どもがわかっていない子どもに教える。わかっていない子どもは先生じゃなくてわかっている子どもに、同級生に聞く。そういう教え合い、学び合いをすることによって、教えるほうは知識が定着して、いわゆる上位層の引き上げになるし、あと低位層の子どもは教えてもらうことによって少し自分で主体的に勉強もできる。コの字型というのは、そういう良い作用が期待できるシステムだと思うんです。ですから、それを小中一貫の1つの取り組みとして入れたら、今までとは違って新しい学校のいい影響が出るのかな、と思うんです。そういうこともぜひどこかで考えていただきたい。そんなところです。

○山名克典教育委員

コの字型から関連していきますと前から言っている、できる子が小さい、同級生の子に教えるということが自分の再認識につながる。それはコの字型じゃなくても、同級生がその子に教えるということで自分が再認識し、教え方や説明するときの難しさがわかると、それは上位層の子たち、できる子はすごくレベルアップにつながる。それは昔からの話で、同級生の子に教えるような形をいう。子どもの関係をよくし、そういう状況をつくるといいんですけど。

ただ、小学校の時はある程度いけるけど、中学校の1年生ぐらいまでは僕の意識、感覚では大丈夫ですけども、中学生がもっと大きくなってくると、やはり友達同士の関係が成り立たなくなってきた、クラスの中で、できる子の意見を安易に受け入れることができなくなって、中学生になった時に、小学校の高学年でも結局お客様になってくる子がでてきている。だから、その子に対する対策、それがボトムアップって言うけど、ボトムアップに関しては結局どうするかっていったら、クラブ活動に関しては顧問が何時間もついてクラブ活動するのに、学習に対しては何でしないの、ってなってくる。勉強を何で残った時間にしないのかいうこと。その時間数が絶対的に足りないと思う。学校の中での教育に関しては、スポーツよりもやっぱり教育のこと、学習のことに関して時間を割いて教える時間がもっと必要だということ。クラブ活動についているよりも、クラスの中にいる手を加えなきゃならない子に関して手を加える時間、勉強の仕方がわからないという状況が僕はあると思う。それを家庭学習でしなさいと言っても、勉強しなさいっても、親も、はっきり言って言葉悪いですけど要するに勉強をしてきていなかったら、中学校の勉強も見られない。実際に教えることもできないし、自分もわからない。「そんなもん勝手にせんか」言うて、「学校で教えてもらえ」って言われると思う。学校で教えてくれる先生が、その子に勉強の仕方を手とり足とり教えてないし、中学生あるいは小学校の高学年になったときに手の加え方が、さわり方がやはりついつい少なくなっているんじゃないか。

やっぱり言われた補充授業がどうのこうの言っているけど、絶対的時間数が少な過ぎます。この前も言ったんですけど、やっているって言って羅列はするけど、年間に何時間やっているんやいうことになる。がんばりタイムっていったって年間何時間やっていますか。1週間に何回やっていますか。ほとんどない。やはり時間がスタディアシスタントに勉強している大学生たち、年間ほんなら何人雇っているねん。100人も200人も雇っているかと言ったら雇ってない。何人雇っているかと言ったら、今度は数えるだけ。月に1回か2回しか来てない。それでやっているって言って、教育の成果ってやっぱりぱっと出ないと思う。ある程度やるのだったら、きちんとしたスケジュールで、ある程度日常化した形の学習状態をつくらん限り国会答弁用的な、やっています、やっています、やっています、やっていますの羅列というのはやめて、実際にはどのぐら

いの時間やっているか、を考えてやらないと、クラブ活動のスポーツに対する指導は、一生懸命、一生懸命、しんどい、しんどいと言いながらやっているくせに、勉強のことにしても中学校の先生は個別指導的なことをもっと積極的にやってほしいです。

もう一つ大きな懸念がある。今度、道徳が入ってきたらますます35時間ですやんか。35時間、時間とります、道徳に。道徳って、僕らが小学校の時ありましたけど、倫理とかあるいはそうした違う科目に置きかえて勉強していくような形であった。そうしたら、今回、道徳はそういうのに置きかえることなくきちっと充実してやってくださいということになったら、道徳が学力向上につながるか、つながらないかは、国語的発想、社会的発想ということになれば、思考、いろんなことを考えて、モラルを考えて、文章の読み方と考えたら、国語の分に関したらプラスあるかもわからない。社会、理科の理解もあるかもわからないけど、覚えなきゃならない。暗記項目だけではなく、覚えていかなきゃならないことが、学習としては時間的に短くなってしまう。削られる。そうしたら、明らかに授業日数を増さないと仕方ない。道徳で削られた分は、プラスアルファしないと今のレベルでやって35時間なくなったら、35時間の学習時間が短くなりますからね。そういうことでしょ、単純に考えたら。

○衣笠好一教育長

道徳はもともと35時間するけども、今、先生がおっしゃった、先生の学ばれた時は、それを削って例えば他の教科にされていたとか、それはルール違反ですから。

○山名克典教育委員

いやいや、実際事実そうやったんですよね。違う科目に置きかえますやん。高校でも全部そうですやん。高校でも全部置きかわっていくし、そうしたら結局いろんな教科書の学校の問題、関係ない話で、結局終わってない授業ってありましたやんか。高校で、大学受験を受けるに当たって、その単元が終わっていないのに終了し、終了的な形をやって受験した。それはやっぱりだめです。高校でもう一回その授業を受けなさいという問題があったのと一緒です。今度、授業がますます増えて、しなきゃならないことがあったら、それはクーラーがついたら夏休みを短くしてやるし、土曜日まで学習的なものもやっていく、という新たな改革をやるんやったらプランをもっていかなあかんしと思うんですけど。まず日常の中で先生方が学校の中で授業とは別に、補充授業を明らかに1時間2時間でも見てあげる時間をつくってほしい。それを日常化してほしい。クラブよりもそっち。学力、文武両道と言って、武ない人いっぱいおるし、クラブやってない人の帰宅組もあるし、そういうのもあるけど実際、スポーツに関してはある程度、集団でやって、管理もしなければならぬけど、勉強に関しての時間を先生が管理したかって学校で補充授業というのはやっぱり設定してやらなきゃ絶対だめじゃないかなと思う。

もう一つ、実際皆さんどう思っているのか知らないけど、大阪の話を聞きましたよね。知事の。成績上がったら給料上げましょう。ちょっとおかしいと思います。異常やと思いますけど、でも市長もそれぐらいやってほしいのだという希望をすごく痛感するし、僕もやるんやったらそれなりのことをやってほしいんだと。何でもっと勉強させてくれないんだろう。何でクラブよりも勉強のことを面倒見てくれないんだろう。根底から言ったら、日本のクラブ活動は、本来、前からちらちら言われているのは、学校教育の中でクラブ活動はなくていいんじゃないか。クラブチームでやりなさい。外国やったら、学校でクラブなんか、無かってもいいということがいっぱいあって、勉強だけやればいいのであって、勉強を教えるのが学校であって、クラブ活動なんかは勝手にやったらいいことであって、外で。極論を言えば。学力向上するんだったら、そういう意識もあるんだったら、なおかつクラブ活動ってどう意味があるんだらうとなったら、やっぱり減

らしていく。真剣に考えてほしいなと思う。やっぱり勉強を見てあげてほしいなという気はするんです。

○神尾信作教育委員

夏休み、中学校の部活動で学習させているクラブが幾つもあるんです。夏休み中ね。

○山名克典教育委員

だから、先生ね。クラブ活動をしている先生は、クラブ活動している子に学習をさせる。クラブ活動していたら集中力ある。1つはその側面もあるでしょう。でも、クラブ活動をしてない子が、5割はいる。そういう子の勉強の仕方というのも考えるべきで、うまくいった成功例は別。それよりもクラブに入っていない帰宅組でも勉強の仕方がわからない子がいっぱいいる。そういう子たちのボトムアップするためにはどうするかという話をしなあかんと思うんです。ごめんなさい。

○神尾信作教育委員

ただそういうふうになっている部活動の顧問も市内各中学校に必ず何個か部活はあるというのを知っていただきたいなと思います。

○登 幸人市長

学力になったら。

○布施隆志教育委員

私もいろいろ個人的に解析なんかしていて、やはり高砂の特徴っていうのは、小学校では自慢できませんけど、平均的な全国に近いレベルにある。ただ、中学校になったらなぜか極端に成績が下がる。近隣の市に比べても極端に下がっている。どうしてかという、評価の仕方が5点以内やったら全国レベルって、そんなこととんでもない評価。1点でも低かったならば、それは平均以下。2点やったら、とんでもない。加古川では2点低かったら劣る。明石やったら1点下がったら劣るっていう評価をしているんです。だから、高砂のまず考え方が1つ甘い。それで、甘いからこそ勉強に対する熱意も、そこまで本当にあるのか。これ去年、出しましたよね。この表を。学習状況もあるし家庭での調査もあるし、あきらかにこれを見たらわかりますよ。中学生になったら勉強しない。小学生はそれなりに勉強して全国レベルの数値が出ている。中学生になったら、なぜか家庭学習、復習、全国レベルから大幅に低い。同じ人間で24時間の生活をしていて、何でこんなに時間を使わない。逆に使っているのは、これだけじゃないかもそれませんがテレビゲームだとか、ビデオだとかDVDに使っている時間は、全国レベルよりも大幅に高い。要は、家庭学習をやってない。それをなぜそのまま放っておくかっていうところです。

中学校の先生だって、自分とこの生徒が全国レベルに対して、この結果を見ても明らかに低いというのはわかっているはず。それも長年続いているというのが。傾向的には良くなっていますとは、正直言って言いがたい。年によっては多少上がったり下がったりする。だけど、全国的に言うとはほとんどが中学校は下というのは本当に考えなくては。先生が要は不良をもって、自分のところの生徒をもっともっと学力を上げようというのを具体的に何をやっているんですかというところなんです。中学校の先生だけじゃないけど、小学校もそうなんだけど、先生の評価っていうのは、私が客観的に見たときに運動で頑張ったところの顧問の先生はいつも表彰される。何とか表彰という必ず運動関係の表彰ばかり。勉強でどれだけ頑張ったとかいうのは、全然評価されてな

い。それも何か変だなというふうに思います。

子どもたちの将来を考えたら、運動だけで行けるのかということは決して言えないし、もちろん今の体制で運動しとけば推薦入学があるから推薦のほうが楽だからって、そういう甘い気分でやっている子もかなりいるんじゃないかな。そんな制度もおかしいと思うんです。本来、学校っていうのは勉強させるところ。運動はもちろん健全な体を養う。運動というか部活というのは。逆になっているんじゃないかな。運動していった将来を切り開こうか、進学しようだとかいう考えは、まずおかしい。まずは勉強をしっかりやって、かつ運動もやる。

今の中学生は朝練をやります。朝の7時から出て行ってやって、8時過ぎまでやって、それから勉強入ります。夕方また4時ぐらいから練習やって、6時過ぎに帰ります。1日4時間もやっているのが日々続いて、土日にもまた出てきてやっている。それを半分でもいいから勉強の時間に使ったら、かなりその子たちは運動もできるし、勉強もできるし、すごく伸びると思うんです。うちも病院をやっているのだから、来る子どもたちに、今年1年生になったけど、「どう」って聞いたら、「しんどいです」「何がしんどいの」「いや、部活がしんどい」そういう悲鳴を挙げながらも何か知らんけど部活を続ける。ある家庭によっては、部活を続けると内申点がよくなるから。部活をやめると内申点が下がるからという言い方をする人もいます、実際。そうじゃないだろう。それよりももっともっと勉強して、学力をつけて、全国にはいっぱいいろんなレベルの学校もあるし、この近辺にもいい学校あるから、そういうチャレンジすればいい。そうすると、将来の未来がひらけるんじゃないかな。

実際、家庭環境がどうのこうのって言うけども、家庭環境だって、そういう家庭環境の人こそ、それを脱却するためには学問なんです。勉強なんです。マララさんが言ったじゃないですか。やっぱり学問。私たちを変えるには学問が必要だ。先生が必要だ。ペンが必要だ。それはもう全国に共通だと思うので、もっともっと学校の先生でも中学校の先生でも結果に対する評価、例えば学力テストの結果が上がる。それを評価してもらって、下がったらそれも評価される。ちょっと極端かもしれませんが、そういう気持ちをもって、あなたたちの査定それにもかかわるよという危機感をもたせるのは悪くはないと思います。

サラリーマンだったら、結局そういう評価でしかないんだもん、給料は。出世するのも出世しないも、そういう横並びの評価で受けて競争している。じゃあ、学校の先生の競争はスポーツの評価で競争するのか。違うよと思うんです。もっともっとこれから、中学生にもっと勉強をさせる。同じ小学生で同じように上がって行って、中学生で、ガタ落ちっていうのは、そこには根本的に問題があるからこそガタ落ちになるんだから、その問題なのは何かっていうのをもっともっと分析して、先ほど言いましたように明石なんか高砂平均でいったのがマイナス3点、明石はプラス3点、これで6点のギャップがある。じゃあ、同じように小学生が同じレベルで、中学生に入って結果が何でそんなに違うの。そこはベンチマークする必要があると思うんです。進学が中学校で私立に行くとなったら上位が抜けますよ、っていう何かうわさがあるけども、高砂のほうがよっぽどそのまま内部進学というか、そのまま公立へ行くほうが多いんです。よほど都会の明石のほうがいろんな選択肢が中学校にあるから、そこへ行って上位が抜けちゃうんです。それでも公立の学校ではそれだけ差が出ている。それは何なんだということ。そこをもっともっと突き詰めて、こんなデータがあるんだから、もっと自宅勉強をさせるようにやっていく必要があるんじゃないかな。そのためには、学校の先生が何をすべきか。また、教育委員会でも保護者たちにどういう啓蒙していくかっていうのが必要だと思います。

○吉田美香教育委員

私は、中学校では、部活で体力的にも気力的にも絞られてしまって、家に帰ったら寝るだけみたいなどころは確かに我が子を見ていてもこれはちょっと勉強しろって言えないな、何か病気になるんじゃないかっていう不安のほうが大きかったのも、それはもうちょっと考えないと。余裕がないといろんなことを考えられないと思うんですけど。私は小学校のときに本当に勉強のおもしろさを知るっていうことが大事かなと思うんです。おもしろいなと思っていると、中学校になっていくと何か続くんじゃないなと思うんです。うちの子が小学校の時にわからないところがあり、じゃあ、明日先生に質問してごらんって言ったら、先生が残って教えてあげたいけど1人で帰すのが危ないから、お母さんが迎えに来るんだって見てあげるって言われたって言うのです。今ちょっと事情が、いろんな危険なことがあって、子どもを残して見るということにも、やっぱり先生方もいろんな責任を感じてできない部分もあるんだなというのに気がついたので、話が戻りますけど、コミュニティ・スクールみたいな形で、そういうところも子どもを残して教えて、学校の近所の手の空いてる方に、「ごめん、ちょっとこの子、家まで送ったってこないかな」で、「いいよ」みたいな関係ができてくれば、先生も安心して子どもを教えて、その後も安心して帰せるとか、母親も迎えに行きたくても仕事があって行けない方もたくさんいらっしゃるし、その辺のところを何かみんなで見てあげることができたらいいのになというのを考えています。

○登 幸人市長

ありがとうございます。

意見を聞かせていただいて、私も全く同感です。同じような考え方を持っています。ただ、神尾先生と衣笠先生は学校現場でおられた方ですから、それをどう思われたかはわかりません。先ほどの対策の中で言われましたけど、私は教育委員会として考えるのは、学校でいかに先ほど時間っていう話もあったし、学習の補充とか補習とか、そういうようなことも言われましたし、そういったものでいかに子どもに学問の大切さというのを、学習の大切さというのを、習慣もそこでつけていくという、そういった取り組みは、僕は学校の中で必要かなというふうには思っています。

大阪市長、大阪府知事、あんなのは本当はわかっていながら、ああいう給与のやつで言っていると思います。あれは教育委員会に対してというよりも、学校の教師に対して、教職員組合に対して私は言っている言葉かなと思っています。言うけれども、なかなかレスポンスがないということだと思うんですけども。しかしそこまでしなくても、学校の中で先生方が成績を見てこれでいいんだと思ってしまったら、もう進歩も何も進展も何もないという、改善も何もないんで、これはもう一回、この位置は何でかなというのも学校の先生自らも考えていただけたい。あれは何も6年生とか3年生だけの教師ではなしに、その時の教師じゃなしに、それまでの結果がそうなっているのも、やっぱりそこにいらっしゃる先生方がそういう再認識をしていただかなあかんのかなという思いで私はおります。ただ、何も学校だけが問題ではない。それも確かにそうなんですけど、今、我々ができることは学校現場でどうやろうかということやから、まずはやっぱりそこから手をつけていくのが大切なのではないのかなと思ったりもしています。

現場におられた神尾先生、衣笠先生、どうですか。今こういう御意見があったんですけども。

○衣笠好一教育長

確かに市長さん初め委員の皆さんの御意見聞かせていただいて、私自身もすごく、市長さんほどじゃないかもしれませんが、すごく共感する部分の多いです。それをあんまり言うと怒られてしまうんですが、そのあたりもあるけども、でもやっぱり今お聞きした御意見が、保護者の方、市民の方、社会人の御意見やというふうには受けとめております。ただ、それを聞きながら、今も学校現場の先生方の顔を浮かべながら聞いていたんですけども、これをそのままぶつけると、また何か言ってくるやろうなというのがちょっと正直なところあります。でも、そこは先生方もみんな基本的には真面目な方です。そんなにやんちゃな方はおられませんので、教育委員会がしっかりと今、組織のところで学力の対策会議の話をしましたけど、そんな中で教育委員会自身が発信していった、先生方の意識をもっともっと変えていただいて、学力向上、これは学校の基本的な使命やということをおわかっていただいて、学力をつけていこうという機運を高めるというのがまずないと前へ1個も進みませんので、そこをきっちりとやりながら、先ほども言いました具体的な取り組みについては一つ一つ丁寧に、それこそ一律にじゃなくて、ここの学校はもうちょっと厳しく見なあかんとか、ここはある程度任せてとかいうのをメリハリつけながら、教育委員会としては学校に対して指導はしっかりとやっていかんとだめやなと思う一方、かなり部活のことで厳しい意見をいただいて、中学校の先生は本当にわかってないような御意見もありましたけど、中学校もやる方はやっていますし、部活にしてもただ単に運動だけってということじゃなしに、神尾委員さんから話がありましたように学力についてもしっかりと考えている先生がほとんどです。そこはやっぱりきちっとわかっていただきながらも、今部活動の指導指針を見直していますので、それをしっかりと現場の意見を吸い上げた形できっちりと改訂版をつくって、それを守っていただいて、健全な部活であり、帰った後の学習にも資するような形の取り組みを今後していただきたいと思っておりますので、それは出ただけじゃなくて、出した限りはその通知文を受けとめて、学校できちっとやっていただけると、教育委員会がきっちりチェックしながら取り組んでいかないとだめということで、気持ちを今引き締めないかなという思いで聞かせていただきました。

ありがとうございました。

○神尾信作教育委員

学力は当然、小学校、中学校の学校でつけなければいけない最大の目的であるのはもちろん全員が認識していることです。ただ、部活動が主犯、主たる原因と考えるべきではないというふうに、僕は考えています。行き過ぎたのはもちろんだめで、特にこんな暑い中、命がけでやるものではもちろんないので、健全な育成をということがあるので、当然行き過ぎた指導についてはだめですけども、今、教育長さんからもありましたように指針も見直しているし、その中で一生懸命やっていくというのは本当にトータルの人間として、いわゆる人間性、人間力としてどれだけ部活動というのが大人になって自分を助けてくれる。よくいうコミュニケーション能力だとか、いろんなことに向けて、学力だけで、要するに知能だけで生きていく世の中を切り開いている人間というのはほとんどないと思うんです。例えば学校の教師なんていうのは、できればある程度の学力はいるんでしょうけども、我々はいわゆる学歴だとか自分の知識で持って職業を全うしているとかは全く思っていないで、やっぱり教えていくには人間性というか、そういう部分のほうがよく大きいんです。授業で教えることは自分の好きな教科をやっていることもあるからそんなに苦労はしないんですけども、それを引きつけるっていうのはやっぱり人間性で、そこはどこから培ってきたかというと、例えば僕なんかは運動とかを通して身につけたことが多いように思うんです。勉強よりも。そういうことも含めて自分の経験からもそんなことを思いますし、いろいろな原因があって、部活もその一端を担って

いるのは間違いないと思います。要するに時間的な縛りとか拘束とかそういう面から見ると、やっぱり問題はそこにもあるだろうな。でも、家庭学習もあるだろうし、他のことも含めて、教育環境のことも含めて、あと高砂という風土はどういう風土なんだ。要するに、ずっとずっとスポーツとかを支えてきた風土だと思うんです、僕は。だから、その風土まで否定するのかというようなことになったりするような気がしますし、そういういろんなところから見直していかないと、1つ部活動がだめだということだけで、部活動の見直しを全てやれば解決するというと、僕はこうなるのは危険だなと、このように感じています。

それともう一つは、部活動を一生懸命やっている教師は、押しなべて授業とかにも熱心です。全てとは申しませんが、傾向とすれば。ですから、例えば、わかりやすい部活動のことで顕彰されるんだけど、それ以外に授業もちゃんとやっているし、生徒指導もちゃんとやっているよという教師がほとんどだと思います。そういう部分ができてないと、部活動だけで学校の自分の立ち位置を持っている教師はほとんどいないと思います。ですから、こっちをやっている者はこっちもやっているというふうに僕は思います。現実はそのだと思いますから、学力向上ということは当然考えないといけないけども、部活動だけのことで考えるんじゃなくて、他のこともいっぱい含めて傾向、対策を立てていただきたいなと思います。

○登 幸人市長

時間も5時半近くなりましたので、学力の話はまた今度この30年度、今日はなぜ出せなかったのか、ちょっとよくわかりませんが、出た時にまたもう一度、総合教育会議でできてからずっと同じ議題、学力だけは通してやってきている課題でもございます。また、これからも引き続いてやっていきたいと思っておりますけども、ただ教育委員会として教育長さん、これお願いしときますけれども、こういう問題、学力というのは、私は、教師は教育指導要領にのっとってその最低レベルを教えたらい、教えたらいだけでは、私はやっぱりあかんのと違うかな。子どもがいかにか理解しているかという、一定のレベルが必要と違うかな。教えたからそれで自己満足、あとは子どもが悪いとかいうような形にだけはならないように。もしできない子がいれば、レベルが低い子がいれば、その子にはもう少し上げるような、そういう取り組みも私は必要とちがうかなと思ってます。これも毎回同じことを申し上げておりますけども、そういったことで各学校、各先生方と、教師と、またそういう取り組みの話し合いもしていただいたらな、と思いますので、学力については、今日はここで置いときたいと思っておりますので、よろしいですか。

そうしたら、きょう予定しておりました議題は以上でございます。
もし、何かこの際ですから何かございましたら、おっしゃっていただいて。

○赤松祐人学校教育課長

すみません。先ほどのプロジェクター等の価格ですけども、プロジェクターのカメラは1教室分で40万弱ぐらいです。

○登 幸人市長

それは1学校で40万ですか。

○赤松祐人学校教育課長

1クラス分です。

○登 幸人市長
1 クラス分。

○赤松祐人学校教育課長
はい。

○登 幸人市長
何クラスあるかな。

○赤松祐人学校教育課長
230 ぐらいです。

○登 幸人市長
これで第1回目の高砂市総合教育会議を終わりたいと思います。本日は、どうもありがとうございました。またよろしくお願いします。